令和５年度（2023年度）

「市長と語る」の記録

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

八王子市

は　じ　め　に

八王子市では、市民の皆様に市政への理解を深めていただくとともに、市民の皆様の思いをまちづくりに活かすために、市政に対する意見や提言を市長が直接お聴きする対話集会「市長と語る」を開催しています。

令和５年度（2023 年度）は、４年ぶりに地域の会場で市長と参加者の皆様が直接顔をあわせ、「市長と語る八王子の未来～住民主体のまちづくりについて～」をテーマに、地域住民が主体となって行っている活動や、地域の課題等、さまざまな点について意見を交換しました。

５月から７月にかけて全３回開催し、学生など若い世代の方や、地域で活動を行っている方など、30 名の方から御発言をいただきました。また、各会場を合わせ 182 名の皆様に御参加いただき、地域での活動や課題等を幅広い世代の皆様と共有することができました。改めて感謝申し上げます。

今回いただいた御意見・御提案は、今後の市政運営の参考とさせていただきます。

目　　次

1　意見・要望等項目別件数 …… 1

2　テーマ・各会場の実績 …… 2

3　所管別内容

（1）所管別件数一覧表 …… 2

（2）所管別件名一覧表 …… 3

4　意見・要望等及び市長コメントの要旨 …… 6

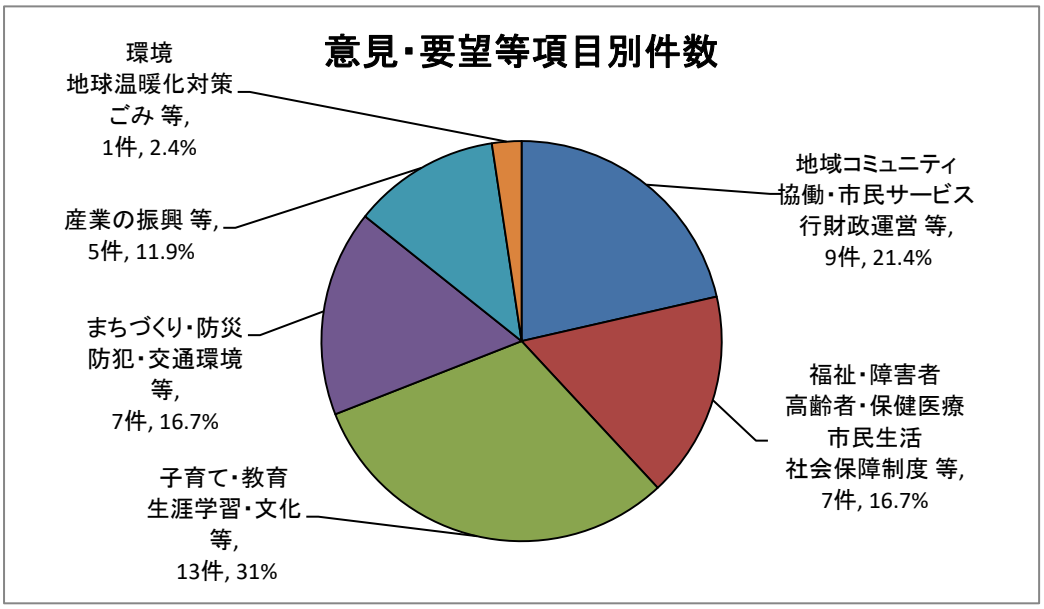
5　過去の提案等取組状況 …… 43

6　開催案内ポスター …… 46

1　意見・要望等項目別件数

会　場 ／ 要望項目の分野	第1回 恩方市民センター	第2回 八王子駅南口総合事務所	第3回 南大沢市民センター	合計
地域コミュニティ・協働・市民サービス・行財政運営 等 （第1編 みんなで担う公共と協働のまち）	4	2	3	9
福祉・障害者・高齢者・保健医療 市民生活・社会保障制度 等 （第2編 健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち）	2	3	2	7
子育て・教育・生涯学習・文化 等 （第3編 活き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち）	4	4	5	13
まちづくり・防災・防犯・交通環境 等 （第4編 安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち）	3	2	2	7
産業の振興 等 （第5編 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち）	1	2	2	5
環境・地球温暖化対策・ごみ 等 （第6編 一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち）	1	0	0	1
合　計	15	13	14	42

※ 分野の区分は、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」の都市像による



２ テーマ・各会場の実績

テーマ:「市長と語る八王子の未来～住民主体のまちづくりについて～」

開催日	会　場	延べ参加者数（人）	発言者数（人）	発言項目数（件）
5月27日	恩方市民センター	64	8	10
6月24日	八王子駅南口総合事務所	75	13	10
7月8日	南大沢市民センター	43	9	10
		182	30	30

３ 所管別内容

（1）所管別件数一覧表

部　名	件数	部　名	件数
総合経営部	4	環境部	1
市民活動推進部	7	都市計画部	5
財政部	1	拠点整備部	2
生活安全部	1	まちなみ整備部	3
福祉部	7	道路交通部	2
子ども家庭部	4	学校教育部	4
産業振興部	7	生涯学習スポーツ部	10
		合計	58

※一件の発言に対し、担当が複数の所管にまたがることがあるため、発言項目数と件数が異なる。

（2）所管別件名一覧表

総合経営部　4件

案件番号	発　言　項　目
8	地域の魅力・資源を活用し、地域で連携したまちづくり
11	障害者自立支援制度について、高尾山の登山料徴収について
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について
19	子育て世帯が「まちづくり」に主体的に参加するために

市民活動推進部　7件

案件番号	発　言　項　目
1	恩方地区の地域振興について
9	市民が作るバラの町は八王子
15	音楽、文化の面から豊かさを作る
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について
17	八王子市の市政提言発表会にて発表した八王子のまちづくりに関する提案を発表します
19	子育て世帯が「まちづくり」に主体的に参加するために
22	より多くの外国人留学生・就労者の受け入れと、よりよい就職、日本語教育や生活のサポート推進

財政部　1件

案件番号	発　言　項　目
11	障害者自立支援制度について、高尾山の登山料徴収について

生活安全部　1件

案件番号	発　言　項　目
18	地域防災の在り方について

福祉部　7件

案件番号	発　言　項　目
4	建て直しになった市営泉町住宅内へ「はちバス」路線バスを増設していただくか、ルートを新設していただきたいです
5	難聴者や高齢者にも住みやすいまちづくりをお願いします
6	地域で見守り、作る、子どもの居場所、多世代交流の場
9	市民が作るバラの町は八王子
11	障害者自立支援制度について、高尾山の登山料徴収について
12	在宅介護者が働ける環境作り、秘境上恩方の活用
24	観光案内所などの手話通訳対応

子ども家庭部　4件

案件番号	発　言　項　目
6	地域で見守り、作る、子どもの居場所、多世代交流の場
15	音楽、文化の面から豊かさを作る
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について
19	子育て世帯が「まちづくり」に主体的に参加するために

産業振興部　7件

案件番号	発　言　項　目
7	恩方地区での商店会活動内容
8	地域の魅力・資源を活用し、地域で連携したまちづくり
9	市民が作るバラの町は八王子
10	八王子市の金剛の滝を有名にするために
11	障害者自立支援制度について、高尾山の登山料徴収について
17	八王子市の市政提言発表会にて発表した八王子のまちづくりに関する提案を発表します
24	観光案内所などの手話通訳対応

環境部　1件

案件番号	発　言　項　目
2	地域材を活用した製品と、地域に根付いた山守

都市計画部　5件

案件番号	発　言　項　目
4	建て直しになった市営泉町住宅内へ「はちバス」路線バスを増設していただくか、ルートを新設していただきたいです
5	難聴者や高齢者にも住みやすいまちづくりをお願いします
8	地域の魅力・資源を活用し、地域で連携したまちづくり
12	在宅介護者が働ける環境作り、秘境上恩方の活用
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について

拠点整備部　2件

案件番号	発　言　項　目
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について
23	八王子市街地の衰退原因は何かと捉えておられるか

まちなみ整備部　3件

案件番号	発　言　項　目
8	地域の魅力・資源を活用し、地域で連携したまちづくり
10	八王子市の金剛の滝を有名にするために
16	駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、1年間を通して感じた現状と課題について

道路交通部　2件

案件番号	発　言　項　目
4	建て直しになった市営泉町住宅内へ「はちバス」路線バスを増設していただくか、ルートを新設していただきたいです
5	難聴者や高齢者にも住みやすいまちづくりをお願いします

学校教育部　4件

案件番号	発　言　項　目
2	地域材を活用した製品と、地域に根付いた山守
14	市教育委員会の「子どもの未来を創造性豊かにする広域活動」計画について
15	音楽、文化の面から豊かさを作る
22	より多くの外国人留学生・就労者の受け入れと、よりよい就職、日本語教育や生活のサポート推進

生涯学習スポーツ部　10件

案件番号	発　言　項　目
1	恩方地区の地域振興について
2	地域材を活用した製品と、地域に根付いた山守
3	「百名城」及び「日本遺産」としての名に相応しい八王子城跡の整備、保護そして活用を
6	地域で見守り、作る、子どもの居場所、多世代交流の場
13	市長と語る八王子文化の未来　～八王子車人形について～
14	市教育委員会の「子どもの未来を創造性豊かにする広域活動」計画について
15	音楽、文化の面から豊かさを作る
17	八王子市の市政提言発表会にて発表した八王子のまちづくりに関する提案提案を発表します
20	八王子の中の南大沢のこれから
21	伝統文化「八王子まつり」を体感して地域活性化につなげる

４　意見・要望等及び市長コメントの要旨

テーマ「市長と語る八王子の未来　～住民主体のまちづくりについて～」

令和５年（2023 年）５月 27 日（恩方市民センター）

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
1	**【恩方地区の地域振興について】** 松本　英治 様 私は「恩方夕やけスポーツクラブ」で委員長を務めており、スポーツを通じた地域コミュニティづくりの活動を行っています。 活動としては、小学校でのランニング教室や地域ふれあいスポーツ大会、町会や住民協議会などの納涼盆踊りや市民センターまつり、小田野中央公園さくらまつりなどのお手伝いをしています。 中でも「健康体操教室」では、地域住民の健康づくりに寄与していると自負しています。 また、「恩方音頭の保存活動」では、恩方音頭を何とか復活させようと、古いテープの音源を編曲してＣＤ化し、踊りの振りつけも新しく考え、小学校を中心に普及活動に努め、今では運動会で踊ってもらえるまでになりました。 こうした活動ではありますが、運営員の高齢化や後継者不足、運営資金の問題などがあります。 これからも、恩方地区の文化の継承や地域住民の健康づくりなどに力を注いでいきたいと思っているので、助成などのご協力をお願いします。	総合型地域スポーツクラブを対象に行った調査では、多くのクラブが人材や財源の確保が課題となっていることが分かっており、本市では、総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ大会や運動会に対して補助を行っているほか、活動施設の環境整備として器具の修繕などに対する支援を行っています。 また、市民活動支援センターへ登録いただくと、団体の運営や資金確保に関する相談をすることができ、さらに「八王子コミュニティ活動応援サイトはちコミねっと」を利用すれば、会員募集や団体の情報発信を行うことも可能です。民間企業や団体が実施している助成金等の情報も掲載しているので参考にしてください。 国では現在、子どもたちが将来に渡ってスポーツ・文化活動に親しむ機会を確保するため、中学校部活動の地域移行・地域連携を進めており、総合型地域スポーツクラブは、地域の担い手の一つとして期待されています。 また、多くの中学生が地域のスポーツクラブで活動することになれば、クラブ会員の増加にもつながり、将来的には指導者となってクラブ活動を担うような循環を作れるのではないかと考えています。 総合型地域スポーツクラブの皆さんにはスポーツという観点だけでなく、様々な点において地域づくりに寄与していただいており、引き続き、地域で活躍していただくことを期待しています。	市民活動推進部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
2	**【地域材を活用した製品と、地域に根付いた山守】** 三澤　正孝 様 八王子市の面積の３分の１は山間部で、46％ほどは森林です。そんな八王子の森林は、アウトドアやマルシェのような、我々に憩いの場を提供してくれる環境だと思います。 ＮＰＯ小津倶楽部の活動として、昨年は元木小学校で小津のヒノキを使って、箸づくりのワークショップを行いました。今年は上川口小学校で、児童と一緒に裏山の木を伐採したので、その木を使った木工製品の作り方を教えていく予定になっています。一緒に木を伐採した時に、子どもたちはとても興奮した表情で歓声を上げており、その様子を見て、八王子には身近にすばらしい素材の木があることをこれからも伝えていきたいと思いました。 このような体験は、大人になっても八王子の環境のすばらしさを忘れない経験になると思います。市には、このような体験ができる活動をもっと増やしていただきたいです。	箸づくりのワークショップや、学校の裏山での木の伐採の体験は、地域の子どもたちを地域で育てている大変すばらしい取組だと思います。 子どもたちはこのような体験活動を通して、八王子市の自然の豊かさや環境のすばらしさ、地域の方とのつながりの大切さを学べたと思います。このような学びの機会は市としても必要性を認識しており、校外学習や郷土学習の一環として体験活動を希望する学校を募っていただき、学校への出前事業として実施していただくことは可能です。 また、体験学習により子どもの頃から身近な自然に触れ、環境についての興味、関心を深めることで、将来的に環境を守り育むことができる大人に育っていくことも期待できるので、三澤さんには今後も担い手として関わっていただきたいと思います。 八王子の豊かなみどりは、市民共有の財産であり、私たちの生活を支えている基盤のひとつです。この豊かなみどりを次世代に継承していくことは、私たちが果たさなければならない、とても大事な責務だと思います。市では「体験を重視した環境教育・環境学習の推進」や、「多様な主体と連携した環境教育の充実化」などの取組を掲げており、八王子の環境のすばらしさを、ぜひ広めていきたいと思います。 三澤さんには、これからも子ども達に八王子のすばらしさを伝えるとともに、体験活動を通した学びの機会を作っていただきたいと思います。	環境部 学校教育部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
3	**【「百名城」及び「日本遺産」としての名に相応しい八王子城跡の整備、保護そして活用を】** 安斉　正夫 様 私は、八王子城跡の搦手（からめて）側に住んでいますが、八王子城跡の山頂エリア及び搦手エリアの整備、保存、活用といったことで、提案・問題提起をさせていただきます。 八王子城跡の本丸周辺では、説明板はほとんど見えず、壊れかけており、ベンチは傾き、トイレは使用したくない状況です。また、顕彰碑（けんしょうひ）は土台部分が崩れており、滝ノ沢虎口という場所にある木橋は、穴が数箇所あいており、非常に危険です。 さらに、八王子神社の隣に神楽殿という建物がありましたが、すでに取り壊されており、八王子神社の修復から出た廃材だと思いますが、切った枝などが近くにたくさん置かれています。 また、北条氏照が養子に入った大石氏の城「浄福寺城」は非常に重要な山城でありましたが、光が当てられることはなかったと思います。 搦手には案下街道（あんげかいどう）が通っており、戦国以前には、甲斐の国と武蔵の国を結ぶ重要な街道であったと考えられており、松姫が甲斐の国から逃れてきたのも案下街道ですが、ルートマップもなければ、解説板が一つもありません。 さらに、平成30年２月に作成された「八王子城跡保存整備基本構想基本計画書」においても搦手側はほとんど触れられていません。 私も地元に住む一人として、誇りと自信を持って八王子城跡を紹介したいと思っていますが、非常に残念な状況であります。八王子城跡は100名城で、日本遺産のストーリーの一部になっています。今年の11 月には、八王子で日本遺産サミットも	八王子城跡の管理は、史跡の保護を目指して昭和 50 年度に第一次保存管理計画を定め、平成27年に策定した「国指定史跡八王子城跡保存管理計画」と平成 30 年に策定した「国指定史跡八王子城跡保存整備基本構想・基本計画」に基づき、史跡指定の範囲内で整備を行っています。 ご指摘いただいたトイレやベンチなどの老朽化が進んでいることや、トイレの汚れが目立つ状況は認識していますが、松木曲輪（まつきくるわ）と本丸周辺は民有地であるため、市では整備を行うことができない状況です。 また、八王子城跡を含む一帯は、都立高尾陣場自然公園であり、ハイキングコースの整備やトイレ、ベンチなどの維持・補修は東京都が行っているので、ご意見は東京都へ伝えるとともに、自然公園の整備に関わる予算要望を行うなど、市から東京都へ働きかけを行っていきます。 次に、搦手（からめて）側からのルートの散策マップや解説板の整備については、搦手口の大部分が史跡の指定範囲に含まれておらず、さらに民有地であるため、居館地区などの他の地区の整備を優先しています。 八王子城跡に関する解説板の新設や更新は、他の地区でも課題となっています。設置にあたっては地権者との交渉を要することもあり、搦手口地区も含めて優先順位をつけながら適切な場所への設置について、順次対応したいと思います。 八王子城跡は「日本100名城」への選出や日本遺産の認定、情報番組の放映等を契機に注目度が高まっており、ガイダンス施設の来館者数も増加している状況です。 「文化財の活用」という視点から、ご提案	生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	予定されています。まずは地元の住民に支持される整備、保存、活用の具体的な計画を作り、早急に整備を進めることが必要ではないかと思います。	の趣旨を踏まえ、搦手口地区をはじめ、広く地域全体を含めた文化財の魅力発信に努めていきます。	
4	**【建て直しになった市営泉町住宅内へ「はちバス」路線バスを増設していただくか、ルートを新設していただきたいです】** 市川　浩代 様 泉町へ引っ越してきて父と母の介護をしていましたが、最寄りのバス停は、急カーブの見通しの悪い立地で、段差もあり、下りに傾斜しています。バスに乗車するときには、この段差を上がらないと、車道側に車椅子が飛び出てしまい、バスに乗る際にはスロープも段差に引っかかるので、スロープを引くこともできません。また、バス停に行くまでには上り坂があり、父が使用している車椅子は 30 kgほどあり、父を載せると 80 kgにもなるため、買物などをすると、相当の重量を引くことになってしまいます。 昨年、泉町団地内の自治会に、団地内にはちバスを走行できないかと提言してみましたが、却下されてしまいました。市のはちバス担当課や、西東京バスへも電話をしましたが、居住地から 300m以内にバス停があると新設はできないという回答でした。300mの距離を健常者が歩くのと、高齢者や体の不自由な方が歩くのでは、体力的にも違いがあると思います。 近々松枝橋を渡ったところに大型スーパーが開店しますが、私たち弱者では車椅子で橋を渡って買物をするということはとても困難で、現在、泉町団地付近にはスーパーもなく、車を利用できない人たちは買物難民になっています。もし、はちバスが泉町団地内に運行されるようになれば、コミュニティの幅も広がり、利便性も良くなると思います。	障害がある方や高齢者はもちろん、介護をされるご家族に対する支援については、この４月にスタートした本市の基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」で、「誰もが安心して暮らすための地域福祉の推進」を施策として掲げ、地域で安心して暮らすための支援の充実を図るとしています。 例えば、バスなどの公共の交通機関を利用することが難しい重度の身体障害者手帳所持者に対して、タクシー代金や自動車のガソリン代金の助成、常時車いすを使用する方とその付き添いの方への援助として、リフト付き乗用自動車の運行などを実施しています。 この他、相談支援の充実にも取り組んでおり、「はちまるサポート」や「高齢者あんしん相談センター」を設置して、様々な相談に対応しています。 ご提案の「はちバス」の運行は、市内の交通空白地域を中心に、高齢者や障害のある方、また、妊婦の方などの外出を支援するほか、市民の誰もが気軽にご利用いただける公共輸送システムとして運行しています。市川さんがお住いの「泉町」周辺は路線バスが運行していて、交通空白地域ではないので、「はちバス」の運行は大変難しい状況ですが、一つの課題として受け止めます。 また、本市は「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」	福祉部 都市計画部 道路交通部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		を制定しており、この条例では、行政に加えて民間の事業者に対しても「合理的配慮」を規定しています。この合理的配慮の観点から、バス停の段差などの「バリアの解消」についても、事業者に対し、対応いただけるよう働きかけていきたいと思います。 市では「交通マスタープラン」の改定や、「はちバス」の運行のあり方の見直しを進めており、今回いただいたご意見も、課題としてしっかりと受け止め、不便なく移動できる環境づくりを進めていきます。	
5	**【難聴者や高齢者にも住みやすいまちづくりをお願いします】** 石川　千鶴 様 私は中途失聴・難聴者友の会の代表で、聞こえに困っている人とその家族支援者の集まる会などを開催しており、その関連でお話ししたいことが二つあります。 一つ目は、市のホームページから誰でも見ることができる、市長から市民の皆様へのメッセージ動画についてです。いくつか公開されていますが、全ての動画に字幕がついているわけではなく、「地域づくりフォーラム『地域の未来をみんなで考える』」という動画では、手話通訳のワイプはありますが、字幕はついていません。 聴覚障害者の全員が、手話ができるわけではなく、特に人生の途中で聞こえなくなった人は、頑張って手話を習得しなければ、内容を理解することができないこともあります。市が公式に発信する全ての動画には、ぜひ、字幕をつけていただきたいと思います。 二つ目は、私たちは台町の心身障害者福祉センターを活動の拠点としており、手話講習会やタブレット講座などで利用する機会が多くありますが、以前に比べて民間バスの本数がかなり減ってしまい、とても	国の調査では、聴覚に障害がある方で手話を主にコミュニケーションの手段としている方の割合は低く、２割に満たないとのデータがあり、どのようにサービスを提供するのかという視点も大切であることを、改めて考えさせられました。 本市では、平成 24 年に制定した「障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例」に基づき、意思疎通を図るときや、不特定多数の方に情報を提供するときには、必要かつ合理的な配慮を行うこととしています。 全職員に対して、個々に合わせた情報の伝え方に関する内容の研修を毎年実施しており、引き続き、合理的配慮の徹底を啓発していきます。また、字幕の表示は、映像に音声と文字が合うように編集する必要があるので、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を活用してより効果的に取り組むなど、誰もが正しく情報を得ることができる、情報バリアフリーを促進していきます。 路線バスの減便は、バス会社の経営の合理化によるもので、事業の継続にかかる部	福祉部 都市計画部 道路交通部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	通いづらい状況になっています。高齢者の中には、運転免許証を返納してしまい、バスで通うこともできず、講座に参加できないという人も増えています。中途失聴者、難聴者にとって、仲間との交流はとても大事な時間なので、民間バスが行き届かないところは「はちバス」で補っていただきたいと思います。	分であるため、市が介入することはできません。しかし、減便されてから２年を経過していることから、バス会社に対して改めて利用実態の確認をしていただき、また、合理的配慮の観点からも、増便の可能性について働きかけを行っていきます。 「はちバス」の運行に関しては、交通空白地域ではないため難しい状況です。 今回、障害のある方や高齢者の移動手段の確保については、課題が多いことを再認識しました。これからの交通政策に係る計画の策定や事業実施においては、これらの課題を踏まえ、しっかりと取り組んでいきます。	
6	**【地域で見守り、作る、子どもの居場所、多世代交流の場】** 白井　由美 様 私はＮＰＯ法人恩方キッズの理事長をしており、放課後に子どもたちを預かる学童保育所を主に運営しています。 私も、子どもを学童保育所に預けて働いていた保護者の一人でしたが、仕事が終わり、子どもを迎えに行ったときに「おかえりなさい」「お疲れさまでした」と声をかけられると、体の力がふっと抜け、ほっとしたのを覚えています。また、子どもたちも「ただいま」と、元気よく家に帰ってくるように学童保育所に来るので、先生たちは「おかえり」と優しく声をかけています。そんな他愛もない会話がとても大事なことだと思っています。 学校から学童保育所に来る子どもたちは、充電が切れた状態で来きます。保護者も同じで、仕事で疲れ、充電切れでお迎えに来るので、ときに学童保育所は、子どもたちや保護者の愚痴や悩みを聞くお茶会のような場所と化すときもありますが、そこが学童保育所の良いところだと思います。	本市では基本構想・基本計画である「八王子未来デザイン 2040」で「地域全体で子育てを支えるとともに、切れ目のない質の高い教育を通じて、未来を担う子どもの生きる力を育む」ことに取り組むこととしています。地域の中で子どもを育てていくために、市や学校、地域が連携し、子どもたちが安心して過ごすことができ、様々な体験ができる場を増やしていきたいと考えています。 ご発言にあった「子ども食堂」は、子どもや保護者の居場所、相談の場、さらには地域との交流の場など、地域で果たす様々な機能を備えており、本市においても「子ども・若者育成支援計画」の中で、「子ども食堂などを実施する団体数」を指標の一つとしており、登録した団体に対し、補助金を交付するなどの支援を行っています。 また、教育委員会では子どもたちが地域の方とつながりを持ち、様々な体験をしながら育つことで、地域への愛着が生まれ、その子どもたちが成長して大人になって、	福　祉　部 子ども家庭部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	学校や保育園の先生でもなく親でもない、近所のお兄さんやお姉さんみたいな学童保育所の先生という曖昧な立ち位置が、保育園や幼稚園から上がる学校との隙間を埋めるクッション的な役割を果たせると思っています。 学童保育所を運営していく中で、卒所した子どもたちに、たまに会える場所はないかと考えはじめ、「オンガタ食堂」を友だちに会える、とにかくここに来れば何かあると、楽しく思える場所にしようと思いました。 オンガタ食堂には、多くの方が来てくれます。ボランティアで小学生から大人までも来てくれ、一人で来る子どもも多いので、保育士の方や学童保育所の先生たちも見守りに来てくれます。地域で取れた食材を地域の方たちが寄附してくれたり、また、学童保育所や地域のスポーツクラブと協力して、餅つきやダンス教室、フットサルやドッジボール大会などのイベントを開催したりしています。 私たちは子どもたちの居場所として、まずは子ども食堂かなと思い立ち上げましたが、市長は孤立している家庭や子どもたちの居場所をどのようにお考えでしょうか。	また地域の子どもを育てていく、そのようなことを目指しています。 地域の方が学校教育をはじめ、放課後子ども教室や学童保育所などで積極的にかかわれる環境づくりを進めるとともに、市では放課後の学校施設も子どもたちの安全・安心な居場所と位置づけ、「学校は子どものホッとプレイス」の方針を打ち出しています。 今後は行政だけでなく、地域の皆様の力を借りながら、子ども達が自分に合った居場所を自分自身で選べるように、地域の中で子どもの居場所を増やす取組が広がるよう支援していきます。 白井さんの取組は、そこに集う地域の方の悩みや不安をいち早く察知することができる貴重な機会でもあると思いますので、活動の中で、気になる状況を感じた時には「はちまるサポート」に情報提供やご相談をいただければ、個々の悩みの軽減や早期解消につなげていくことができると思います。 今後も市民の皆さんとともに、子どもや若者の声を聴きながら、身近な地域の中に、居場所を確保するとともに人と人とのつながりや機会を作り出し、地域全体で子ども・若者を育て、その成長を喜び合えるようなまちづくりを推進していきたいと思います。 教育、福祉、子育て、健康、福祉など、各分野で連携をとりながら、子どもを中心に置いた安全・安心な居場所づくりに取り組んでいきます。	
7	**【恩方地区での商店会活動内容】** 小沢　達史 様 私はオンガタ銀座商店会の副会長をしており、この地域の魅力を地域の方だけでなく、市内そして都心部やその周りの地域の方々にも発信しています。	オンガタ銀座商店会は令和４年に３年ぶりとなるオンガタマルシェを開催されました。地域住民と地域商店との交流の場として、より良い関係づくりを進め、地域愛	産業振興部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	この商店会は、地元で生まれて、この地元で育って、地元で事業を営むことを共通点にした有志が集まり、「商店会」という団体を立ち上げました。事業者としてそれぞれ経営資源があるので、それを持ち寄って、情報発信、特にイベントを開催して、人を呼び込むことに力を入れています。 ＳＮＳにも力を入れており、会員企業同士がそれぞれＳＮＳのアカウントを持っているので、商店会だけでなく、自分たちの企業側からも商店会を発信することができ、相乗効果が生まれています。 また、イベントでは夕やけ小やけふれあいの里で、１泊のキャンプイベントを開催しました。開催するにあたっては、市や観光コンベンション協会、地元の町会の方など、たくさんの方に助けをいただきながら開催することができました。市内の方はもちろん、市外の方にも参加していただき、大成功を収めました。お子さんにまき割りを体験してもらうなど、アクティビティやワークショップなどを通して、地域の魅力を発信することができたと思っています。 そのほか、商店会として、小田野中央公園の利用拡大について、まちづくり会と普段から交流し、模索しています。 現在はイベント中心ですが、イベントで地域の魅力を発信することは、通過点でしかなく、最初はイベントをきっかけにこの地域を訪れてもらい、いずれは住んでもらいたいという未来のビジョンを持っています。 恩方地域は、まさに、自然と暮らして、自然と遊ぶことができる地域の代表だと思っているので、これからもこの地域の団体の方々と一緒に協力しながら、恩方の魅力をもっと多くの人にアピールしていきたいと思います。	を育んでもらうことで恩方エリアの活性化に寄与するものであることから、本市でも後援を行いました。 また、夕やけ小やけふれあいの里の売店運営にも関わっていただき、令和３年７月にオープンした地域物産商店「オンガタVIEW（ビュー）」では、オンガタ銀座商店会の工業部による製品や作家さんの作品のほか、地域の果物を使用したお菓子やオリジナルパッケージの土産物、雑貨や衣類といった他種にわたる、地元にちなんだ商品を取り揃え、地域の盛り上げに一役買っていただいています。 この「夕やけ小やけふれあいの里」は、機能の見直しや付加価値を生み出すことを検討するため、令和４年度にリノベーション基本方針を策定しました。「豊かな自然環境を活かした地域交流の核となる観光拠点」を目指すためには地域資源、地域住民、地域事業との連携は欠かせないものと考え、夕やけ小やけふれあいの里が地域をつなぐ核となり、地域の魅力を育て、発信していける観光交流拠点となることを目指していきます。 また、令和５年３月に産業振興の新たな基本計画として「八王子市産業イノベーションプラン～Beyond2030～」を策定し、基本施策のひとつとして「地域資源の磨き上げによる活性化」を掲げています。 本プランの実現に向けては、本市ならではの事業を営んでいる事業者が有する商品、サービス、ノウハウを再評価し、本市の強みとして新たな事業展開へとつなげていくこととしています。 「オンガタマルシェ」を始めとする様々なイベントを実施することで、地域住民と商店会との交流が図られ、地域コミュニティの活性化の向上につながるものと考えていますので、引き続きご協力いただくよ	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		う、お願いします。	
8	**【地域の魅力・資源を活用し、地域で連携したまちづくり】** 前原　教久 様 恩方地域で町会自治会連合会の会長として活動していますが、地元の小津町で町会内外の仲間と一緒に、まちづくりの地域活動として「小津倶楽部」を運営しています。 特に上恩方町や小津町は、昔からの里山的な雰囲気が残っており、八王子の中でもよそにない、ゆったりした空気感がある地域だと思っています。地域性を活かした、良い活動ができればと思い、取り組んでいます。 活動を始めた頃は、半分大人の遊び場にしようと、そんな感覚で取り組んでいました。耕作放棄地を再生して野菜づくりをしたり、活用されなくなって荒れた山を利用して様々な作業を行ったりしています。最初に遊び場と考えていたので、基本的には無理をしない、それぞれ身に合った活動をしています。合い言葉は「ちょうどいい加減に仕事をしよう」です。 そのような活動が７年目に入り、最近は子ども食堂など、子どもと関わる活動が増えています。我々は子どもが来ることで、逆に元気づけられ、子どもと大人の共通の居場所となる活動になっています。 そこで市長へのお願いですが、恩方の様々な団体の活動と、市が取り組むまちづくりとを連動させて、「オール恩方」という考えで、まちづくりに取り組むことはできないかと考えました。 恩方にある様々な資源の中で、空き家と耕作放棄地が一番多く、これは大事な資源です。しかし、利用するにはハードルが高く、所有者に理由を聞くと、貸した後の	日頃より地域のまちづくり活動において、ご尽力をいただき感謝します。皆さんが活き活きと活動されている様子が良く伝わり、アットホームな雰囲気が感じられました。 恩方地域の自然的資源は八王子の大きな魅力であり、市街化調整区域であるからこそ守られてきたものであると認識しています。一方で、住んでいる方の高齢化は進んでおり、地域の維持が課題となっています。市では、地域の維持を図る観点から、地域の皆さんの声を伺いながら、地域住民主体のまちづくり活動を支援してきました。 その結果、地域住民によるまちづくり活動を行うＮＰＯが設立されたほか、昨今のキャンプブームも受け、地域の商業者などによる活動も盛んになり、恩方地区ではまちづくりの機運が高まってきています。 先ほどの発言者から紹介された「オンガタ銀座商店会」の若手事業者のような、推進力のあるプレーヤーと地域を結び付けるなど、地域を主軸とした地域活動が継続できる仕組みづくりを目指す必要があると考えています。 空き家の有効活用については地域資源としての空き家の利活用を促進するために、所有者と活用希望者のマッチングを支援する「八王子市空き家マッチング支援事業」を令和５年４月からスタートさせたところです。 耕作放棄地についても、市では貸したい土地所有者と、新規就農や農業経営を拡大したい借受け希望者とをマッチングする	総合経営部 産業振興部 都市計画部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	様々なトラブルなどが気になり、素直に貸せないという話をよく聞きます。それなので、所有者が安心して貸せる仕組みができれば活用が増え、「まちづくり」というものが進むのではないかと考えています。 また、３年前に市が中学校区を中心にしたまちづくりを始めましたが、取組を始めた当初は、全部で 37 地区の地域の課題をみんなで探そう、というワークショップを実施したと思います。そこで、恩方地域でも「よし。取り組もう」という雰囲気になったところに、全体の地域の中で二つの学校区がモデル地区となり、他の地区は休止状態になりました。何事もそうですが、やろうと言ったときに始まらないと、その雰囲気が段々しぼんできて、活動が難しくなると思います。個々の活動はしていましたが、地域全体としての活動はほとんどできなかった状況です。 また、今年度、市では所管の部署が変わってしまい、まちづくりの進め方などが、今までと同じような状況になってしまうのではないかと危惧しています。今後、進め方についての考えがあったら、ぜひ聞かせてほしいと思います。	「農地バンク制度」を実施しており、今後も地域における農地利用の最適化が図られるよう、関係機関と連携を図りながら推進していきます。 地域づくりについては、モデル地区に「地域づくり推進会議」を設置し、地域の歴史や文化、住民のおすすめの情報などが掲載された「地域カルテ」の作成や、「地域づくり推進計画」の策定及び実行に取り組んでいるほか、この取組を市全域に展開するため、地域づくり推進会議未設置の中学校区を対象とした意見交換会や地域づくりフォーラム等を通じて、地域づくりの気運醸成を図っています。 なお、担当部署が変わっても、これまでの取組を継続して進めていき、令和５年度にはモデル地区を始めとした地域づくり推進会議の取組に関する検証を進め、地域づくりの制度構築につなげていきます。 そのうえで、地域の方々の意向を確認しながら、地域主体の活動に向けた準備が整った中学校区については、順次、地域づくり推進会議の設置を進めていきたいと考えています。 前原さんがお住いの小津町は、他の地域に先駆けて、地域のまちづくり活動を開始した地域であり、その活動は、市街化調整区域の魅力を発信する模範となっており、その取組を取り入れる地域も出始めています。 前原さんの活動は、今後も地域で連携したまちづくりのトップランナーとして、恩方周辺に限らず様々な地域の活動に、良い影響を与えていくものと期待しています。	

テーマ「市長と語る八王子の未来　～住民主体のまちづくりについて～」

令和５年（2023 年）６月 24 日（八王子駅南口総合事務所）

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
9	**【市民が作るバラの町は八王子】** 山野美容芸術短期大学 丸山　遥香 様 石井　水称美 様 山野美容芸術短期大学の山短ベルローズが行ってきた「山短ローズガーデンエンジョイプロジェクト」は、本校が地域の方に向けてローズ講習を行い、ローズパートナーになっていただいたことが始まりです。2020 年にローズパートナーの皆さんの協力のもと、本校に美しいローズガーデンが完成しました。 私たちの活動の成果物であるローズマップには、個人庭を含めたバラ園 21 箇所と、広域避難所を掲載し、裏面には各バラ園とハザードマップを表示できるＱＲコードを掲載しました。 そして、市民活動団体のイベント「八王子ＮＰＯフェスティバル」ではワークショップを開催して、高齢者や親子連れの方を含めて 40 名ほどが参加してくれました。今回の活動では、地域の方々との交流やつながりを大きく感じることができました。 管理が難しく、丁寧なお世話が必要なバラを一つ一つ育て上げている個人宅の皆さんのバラ園は、このまちにとって貴重な財産であると思います。バラを通してまちづくりをしているこの環境は、とてもすばらしく、バラ園はこれからも「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」の地域の資源として活用していきたい大切なものであると思います。 私たちの活動では、限界があります。市として公のバラ園を造り、シルバー人材センターの活躍の場の創出や、「八王子てくてくポイント」を利用した市民庭バラ園を支援する取組などがあると、より市民の	山野美容芸術短期大学の皆さんには、大学コンソーシアム八王子が行った令和４年度の「学生企画事業補助金」を活用して、「ローズガーデンエンジョイプロジェクト」を実施し、「八王子ローズマップ」の作成や、市民活動団体のイベントに出展し、バラを活用した取組を行っていただきました。この企画は、「観光まちづくり」をテーマに、アイデアを企画し実用化を目指す「タマリズムコンテスト」においても、最優秀賞を受賞したと聞いています。 作成した「八王子ローズマップ」を見ると、写真が多く掲載され、バラの美しい景観を視覚的に多くの方へ伝える工夫を感じました。また、散策ルートの情報の他に、本市の避難所やシェアサイクルのサイクルポートの位置までも掲載していただいています。こういったアイデアは、市民の防災意識の向上や、外出促進にもつながるすばらしい視点だと思います。 さらに、地域の人にもっとバラに興味をもってもらうために開催したワークショップは、地域住民の交流につながっていくものであり、高齢者の参加も多かったことから、高齢者の介護予防に役立つところが大きいと感じています。 活動に対する支援としては、皆さんの活動を通じて、まちの魅力を体感できる散歩コースを知ってもらえれば、多くの方にもっと楽しく歩いてもらうことができると考えています。そこで「八王子てくてくポイント」のユーザーにウォーキングを楽しんでもらうためのしかけとして、様々な散	市民活動推進部 福　祉　部 産業振興部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	方々の活躍につながると思います。	歩コースを紹介するなど、協力していきたいと思います。 皆さんが八王子のまちをくまなく歩き、たくさんの方々と触れ合いながら作成した「八王子ローズマップ」が、市内外から多くの方に訪れていただけるきっかけとなり、市民にとっても市への愛着が深まること、そして地域で学ぶことを通じて八王子の魅力を発見し、地域の一員として活躍していただくことを期待しています。	
10	**【八王子市の金剛の滝を有名にするために】** 都立富士森高等学校 田口 優斗 様 中島 光稀 様 矢口 悠斗 様 渡邊 実莉 様 都立富士森高校の探求の活動で調べた「金剛の滝」について発表します。 テーマを決めた理由は、八王子市に観光地を増やしたい、八王子市の自然の魅力を伝えたいという思いからです。金剛の滝は、八王子八十八景に選定されているにもかかわらず、ほとんど知られていません。金剛の滝を広めることで、八王子全体を活性化するヒントになれば良いと思いました。 金剛の滝は、市の北西部、今熊山の麓にあり、急勾配の山道を登った奥地に見えます。4㍍ほどの雌滝と不動明王が祭られている 18 ㍍ほどの雄滝があり、景観、風情ともに観光地としてとても最適だと思います。 こんなにすばらしい金剛の滝は、なぜ有名ではないのでしょうか。 我々は、実際に西八王子駅からバスで最寄りまで行き、そこから歩いて行ってみましたが、バス停までは 1 時間 30 分、そこから更に滝まで 40 分歩きました。行った	これからのまちづくりの中心を担っていく高校生の皆さんが、「八王子の自然の魅力を伝えたい、八王子市全体をもっと活性化させたい」という思いを持っていただいていることは、とても頼もしく、嬉しい気持ちになりました。 「金剛の滝」は、平成 14 年に、八王子市の豊かな自然景観、歴史的・文化的な景観などの中から、21 世紀の八王子の顔にふさわしい景観を選定する「八王子八十八景」に「今熊山・金剛の滝」として選ばれています。 また、八王子らしい景観づくりを進めるために、持続的に都市の魅力づくりや良好な景観づくりに取り組んでいくための計画「八王子市景観計画」でも、西部地域の景観資源となっています。 「道が整備されておらず、歩きにくい」「道がわかりにくく、案内板や聞ける人もいない」という皆さんの調査結果がありましたが、この滝の岩壁には、不動金剛明王像が祭ってあり、昔は修験者の滝行に使わ	産業振興部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	結果、市のホームページに八王子八十八景として記載されている割に、道が整備されておらず、歩きにくい。地図や案内板が充実しておらず、道が分かりにくい。聞ける人もいない。バスの本数も１時間に１本で、アクセスが悪く、乗り過ごしたらとても厄介でした。自動販売機も少なく、コンビニもないので水分補給がしにくく、地図は不鮮明でとても分かりにくかったです。我々は、道が暗く怖くて、この先に行ったら危ないと感じ、途中で戻ってきてしまいました。 とても良い観光スポットにするのであれば、自動販売機やコンビニ、高尾山のような食べ物屋さんやお土産屋さんがあると良いのではないでしょうか。 また、あきる野市方面からではなく、八王子方面からの交通面の整備をすることで、来て良かったと思わせる工夫も必要だと思います。	れていたとの言い伝えが地域にはありますので、歩きにくく、人里からは離れた場所にあるのだと思います。 また、金剛の滝は都立秋川丘陵自然公園の中に位置しており、都立公園の管理は東京都が行っているので、コースの整備や、分岐点などにある道標や地図については、東京都が設置をしています。このため、本市でハイキングコースの整備や道標等の設置はできませんが、実際にたどり着くことができなかったという皆さんの生の声は、とても貴重な意見として受け止めました。八王子市を盛り上げていきたいという、皆さんの素直な思いを、東京都には伝えたいと思います。 さらに、最寄りのバス停から迷わず行けるように、バス停にマップを掲示させてもらえるよう、バス会社と調整したいと思います。 金剛の滝を観光地とするには、景観を損なわないよう、景観の保全という観点を考え、より多くの方が訪れやすくなるよう整備し、活用していく必要があります。このほか、ごみの問題や地元住民の生活環境を守ることなど、考慮すべき事がたくさんあることから、地域の方々の意見を踏まえた上で検討する必要があります。 本市には、金剛の滝の他にも多くの観光資源があります。富士森高校の皆さんには引き続き、様々なことを探究していただき、八王子市の魅力を発信していくためのアイデアなどを考えていただけることを期待しています。	
11	**【障害者自立支援制度について、高尾山の登山料徴収について】** 山本　浩 様 私は身体障害者１級で、手・足が動かない、体も全然動かないのですが、いろいろなサービスを受けて、何とか生活をしてい	限られた財源の中で、新たな課題への対応など障害者施策の充実を図っていくためにも、より有効な事業展開に向けた既存	総合経営部 財政部 福祉部 産業振興部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ます。サービスの一つに、訪問入浴制度がありますが、八王子市の場合は、月に４回までしか利用ができません。他の自治体を調べると、最低でも週２回というところがあります。また、利用料も毎年値上がりをしており、かなり厳しい状態です。さらに、使用料の支払いが現金で、その都度、支払いをする仕組みになっており、私のような手足が動かない者に現金を用意して、仕分けをして払うことはかなりの負担です。今は、キャッシュレスの時代になっているので、なぜこのような古い体制になっているのか、疑問に感じています。 また、申請書も紙での提出なので、負担がかかり、あまり自慢できるような状態ではないと感じ、残念に思います。 私の希望は、若い人、年をとった人、性別にこだわらない人、私のような障害の人、いろんな人が安心して、本当に人間らしい生活ができる八王子を目指してほしいことです。 次に、八王子はかなり観光資源が多く、市民としても誇れる場所です。一番有名な観光資源は高尾山で、全国で一番登山者数が多い山は富士山ではなく、実は高尾山です。しかし、登山者数が多いだけでは、何のメリットもありません。富士山は、入山料を取っています。八王子市も入山料を取るなど、歳入を増やすような工夫はいくらでもできると思います。これは一つの提案です。 歳入を増やして、もっと市民サービスに活かす方法をぜひ、検討していただきたいと思います。	事業の見直しや、利用される方に一定のご負担をいただくことも必要であると考えています。 訪問入浴サービス事業については、令和３年度から利用者負担額と利用上限回数の見直しを実施しました。その一方では、令和３年度に紙おむつの給付対象者の拡大や、日常生活用具である視覚障害者支援用具の種目の新設など、制度の充実を図ってきました。 訪問入浴サービスの利用上限は月４回ですが、夏場など暑い時期を踏まえると、この上限回数には課題があると考えています。上限回数や負担額などの見直しに関しては、障害者施策全体を見た中での対応が必要であると考えているので、ご理解いただきたいと思います。 支払いのキャッシュレスについては、本市の訪問入浴サービス等の各種サービスは民間事業者が実施しており、負担額の集金方法は、事業者での対応となりますが、社会的な流れも踏まえ、事業者に働きかけていきたいと思います。 障害のある方の日常生活支援に関しては、課題を踏まえ、しっかりと取り組んでいきます。 次に、新たな歳入の確保の手法としての高尾山の入山料については、社会経済環境の変化に迅速かつ柔軟に対応していくためにも、市民の皆さんとともに様々な角度から歳入確保の方策を考えていくことは重要だと思います。 また、高尾山に生息する多種多様で貴重な動植物の保全や、世界的な課題となっているＣＯ$_2$削減の観点などからも、本市が誇る高尾山の自然を将来にわたり守っていくことは重要な取組であると考えています。この取組は行政だけでは成し得ないものであり、財源確保の重要性を多くの	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		方々に理解いただくとともに、官民が連携して取り組んでいく必要があります。 このような視点から八王子観光コンベンション協会では、高尾山の魅力を未来へ継承するため、募金活動や寄附付き商品事業による収入をもとに、次世代の担い手につながる活動団体への活動支援や、小・中学生を対象にポスターコンクールなどを実施していく予定です。 高尾山は都立高尾陣場自然公園及び明治の森国定公園内にあり、ハイキングコース等の維持管理は東京都が行っているので、高尾山の環境保全に向けた財源の確保については、東京都と連携しながら検討していきます。	
12	**【在宅介護者が働ける環境作り、 秘境上恩方の活用】** 津崎　佳世子 様 今回、市長にお伝えしたいことは、在宅介護者が働ける環境づくりと、秘境の上恩方の活用についてです。 親の介護では施設へ入所させるのではなく、在宅介護を選択する方が多く、仕事を辞めていく方が多くなっています。私も母の介護のために、仕事を辞めました。 デイサービスは保育園などと違い、朝の９時から９時半にお迎えがあり、16 時 50 分から 17 時 30 分頃に帰宅するため、常勤で働くことは難しく、母の状態も日々変わるので、なかなか働き先がなく、現在は働くことに困っています。 介護は、育児と比べてフォローが少ないです。私は、保育園と同じような「託老所」の設置を提案します。 2025 年には、65 歳以上の高齢者は５人に１人は認知症となると言われています。生産年齢の 64 歳までの現役世代が辞めてしまえば、そのフォローはできません。 保育園がある職場には託老所を併設し、	仕事と介護を両立できる社会を実現することは、我が国全体の課題です。 本市においても、高齢者あんしん相談センターで、介護離職防止や介護保険制度に関する相談を受け付けているほか、介護休業制度や介護保険制度を普及啓発するために、セミナーや相談会を開催するなど、取り組んでいます。 各通所介護事業所の利用可能な時間帯は、市が一律で定めているのではなく、事業所が定めています。通所介護の利用時間の前後に、自宅で訪問介護を利用できる場合もあるため、介護サービスを利用するにあたっては、担当ケアマネジャーへご相談してください。 なお、通所介護に訪問介護と泊まりの機能を追加した小規模多機能型居宅介護など、在宅介護を支えるためのサービスについては整備を促進しているところです。 現在、令和６年度からの３か年を計画期間とする、第９期介護保険事業計画の策定	福祉部 都市計画部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	また、44 件あるデイサービスに保育園と同様の早い時間のお迎え、時間延長などがあると、常勤でも働ける環境ができると思います。 託老所が併設されたら、子どもにとっては老いていくことを自然に学べ、子どもの成長にもつながり、また高齢者にとっては、生きがいや情緒の安定にもつながるのではないかと思います。 次に、上恩方の活用についてですが、私の主人は醍醐に住んでいましたが、今は空き家です。醍醐は林業が盛んでしたが、現在は林業を伝えられる方が高齢で、このままでは継承者がいなくなってしまいます。 醍醐は、自然体験や林業体験、柚子の収穫体験、民泊など、活用できる資源が多くありますが、市街化調整区域であるため、住んでいる方々は、もうこれ以上、何もできないという思いがあります。 資源の活用方法など、知識を伝えていくことが必要ではないかと思っています。	を進めています。高齢者が住み慣れた地域でいつまでも「望む生活」を送ることができるよう、今後のあり方について検討していきたいと思います。 次に、上恩方の活用についてですが、醍醐をはじめとした市街化調整区域は、人口減少と高齢化により地域の維持に課題が生じている一方で、山、川、畑といった資源に恵まれた地域でもあります。 そのため、地域資源を活用し、地域の活性化と交流人口の増加、さらには移住者の増加につながるよう、積極的な取組を地域の方々と共に進めていくことが重要であると考えています。 本市では、地域の維持を図る観点から、地域の方々による主体的なまちづくり活動を支援しています。また、市街化調整区域の沿道集落地区で一定の集落規模がある地区については、地域の方々が作成したまちづくり計画に沿った建築物の建築を認める制度を設けています。この制度を活用することで、空き家をカフェや宿などに活用することが可能になります。 引き続き、地域のまちづくり活動を支援するとともに、民泊など、施設整備に対する国の支援等を活用し、民間需要を喚起していきたいと考えています。	
13	**【市長と語る八王子文化の未来　～八王子車人形について～】** 都立南多摩中等教育学校 芦塚　日花 様 伊藤　一亜 様 私たちは、車人形はなぜ重要文化財に指定されたのかというテーマとともに、八王子に残る伝統芸能車人形についての提言をします。 私たちと車人形の出会いは、学校の授業で八王子について様々な側面から調べるという活動から始まりました。	芦塚さんや伊藤さんのような若い世代が八王子の文化に興味を持ち、体験し、継承の必要性を感じていることに、とてもありがたく、また頼もしく感じました。動画で拝見した実際の演技についても、力強さや素早さ、繊細さが表現されていて、大変すばらしいと思いました。	生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	車人形は、平安時代には既に人形遣いが存在し、人形芝居をなりわいとする人々がいました。その後、人形浄瑠璃が生まれ、江戸時代中期には、三人で一体の人形を操るスタイルが考案され、人形芝居が最盛期になりました。車人形は江戸時代末期に、山岸柳吉さんによって考案されたものと言われており、人形浄瑠璃の使い手が減っていく中、座員が少なくても芝居ができればとの考えから、一体の人形を一人で操る車人形が発明されました。 車人形は、東京多摩周辺へと伝わり、現在は川野と竹間沢に一つずつの車人形保存会が、そして八王子に西川古柳座が残っています。 次に、車人形の魅力ですが、車人形は他の人形芝居と違い、人形の足が直接舞台を踏みしめることができるので、力強い演技やテンポの速い演目を行うことができます。細かい動きだけでなく、力強く足を踏みしめて、力強い音を立てられることが魅力の一つでもあると思います。自分の分身として表現したり、一つ一つの役に没入して表現させたりすることが可能です。そして、舞台を選ばず上演できることから、他の芸能との共演も可能で、演出の幅が広いことも特徴です。古典だけでなく、海外の童話や現代アートなど、様々な演目を演じることができるのも、車人形の魅力の一つでしょう。また、車人形自体の特徴として、一人で練習ができることも、車人形の演者が多い理由かもしれません。 私たちのテーマである「なぜ八王子車人形は、国の重要文化財に指定されたのか」という問いについて、私たちが予想した主な理由は、車人形は一人遣いであるからという点です。さらに、市民との関わり方や、若手の後継者がいるかなどのポイントも非常に重要であることが分かりました。	車人形は江戸時代の末から続く伝統芸能で、明治時代に八王子に伝えられて以来、八王子車人形西川古柳座によって継承され、親しまれてきました。本市では、昭和 31 年に、現在の市の指定無形民俗文化財にあたる「市技芸」の第１号に、その後、昭和 37 年には、東京都の無形民俗文化財に指定され、平成８年度には、国が「記録作成等の措置を講ずべき、無形の民俗文化財」に選定しており、国もその重要性を認識していたことが分かります。 令和２年３月に八王子車人形の歴史的な変遷や、八王子以外の車人形の状況、八王子車人形の価値と特色の総括等を行い、「八王子車人形調査報告書」をまとめました。この報告書の内容が評価されて、令和４年３月に国の重要無形民俗文化財の指定に至っています。 お二人からは、文化財への指定の理由として「地域との結びつきを大切にしている」と発表がありましたが、身近に体験できることが、八王子車人形の魅力であると私も感じています。 車人形を操り、自分を表現できるような楽しさを、まさに体験をもって実感されたことと思います。本市では、八王子車人形の保存と次世代への継承の取組が必要であると考え、市民の皆さんにその魅力を体感していただくことが重要だと思っています。 市内の小・中学校に、車人形の魅力を伝えるべく学校を訪問するアウトリーチ事業を、また、令和４年度は東京都の「子どもを笑顔にするプロジェクト」を活用した体験講座「八王子車人形を体験しよう」を西川古柳座の協力を得て小・中学校 21 校で実施しています。 そのほか、車人形を実際に操り、舞台に立つまでを体験できる「八王子車人形体	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	車人形は、八王子市で多くの公演などを行い、幼稚園児から高齢者の方々まで、幅広く親しまれる存在となりました。また、高校生をはじめとする若手の後継者も多く、市民との関わり方が密接であるため、重要文化財に指定されたそうです。 私たちはこれらの結論から、重要文化財に指定されるということは、文化そのものが優れているだけではなく、地域との関わり方も重要であることに気づきました。 私たちと同じ世代には、車人形について知らない人がたくさんいるので、このすばらしい文化を後世に伝えていくために、私たちは同世代の若者だけでなく、大人へも車人形の認知を広めていきたいと思います。将来はインターネットで発信できたらいいなと考えています。 八王子市からも、車人形をインターネットや現実の世界で広める活動をしてみるというのはいかがでしょうか。 また、J:COM ホール八王子など、八王子市民がアクセスしやすい場所で、視聴料が安く、学生でも行きやすい公演の開催の推進を提案します。	験・発表講座」を開催し、発表会では講習生が舞台で観客を前に演じる喜びを味わうなど、市民の皆さんに民俗芸能への愛着を深めていただいています。 また、より多くの方に車人形や伝統芸能の魅力に触れていただく機会として、「八王子車人形と民俗芸能の公演」を J:COM ホール八王子等で開催しています。 お二人のような、若い世代の方が八王子車人形をはじめとした伝統芸能に関心を持ち、体験し、ぜひともファンになって、その魅力を他の方々に伝えてほしいと思っています。 そして、できれば伝統芸能の担い手となり、保存や継承に積極的に関わっていただくことに期待をしています。 本市としても、今後も、市内の伝統芸能の魅力を、より多くの方々、広い世代の方々に伝えていくための取組を進めていきます。	
14	**【市教育委員会の「子どもの未来を創造性豊かにする広域活動」計画について】** 川口　一郎 様 私は今年度から、いずみの森義務教育学校の学校運営協議会委員の委嘱を受けました。初めての協議会開催時に、子どもの未来を創造性豊かにする広域活動を学校と芸術、工学、デジタル技術、さらにライオンズクラブも含めて行いたいと提案がありました。 これは、一般に「ギフテッド」と呼ばれているもので、特定分野に特異な才能のある児童・生徒を支援していくものです。 私が調べたところ、記憶力や高い知性、精神力、あるいは創造性を持った人たち	特定分野に才能のある児童生徒は、その才能や認知・発達の特性等がゆえに、学習上・学校生活上の困難を抱えることがあると言われています。 文部科学省では、こうした児童生徒への支援方策を開発し、推進するため「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」として「学校内での取組に関すること」、「学校と学校外との連携に関すること」、「児童生徒を取り巻く環境整備に関すること」の３つの研究領域での実証研究を実施する団体を募集しました。	学校教育部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	で、まさに神から贈られたギフテッド。ただ、逆に強い光があれば、濃い影もあるようで、学校がつまらない、同年代だと協調性がないなど、疎外感を感じて不登校になってしまう子どもたちが多いようです。割合は人口の２％ほどのようなので、少なくとも八王子でも１万人以上はいるのだろうと思います。 とりあえずは 10 名ほど選抜をして、実施したいとのことでした。ただ、今後どうやってその選抜をしていくのか。知的障害や適応障害など、特殊な能力を持っている子がいますから、どこまで広げていくのか。教育委員会では「ギフテッド」という言葉を使っていません。本当に手探りの状態なのでしょう。 スティーブジョブズさんもギフテッドだと言われていますが、この事業が成功して、八王子から第２、第３のジョブズ氏であろうという人が出てくるのを期待しています。 何をやるにしても、財政的な面が非常に支障となるわけですが、八王子としても学園都市の名にかけて、これをぜひ目玉の政策にしていただきたいと思います。	本市教育委員会は、この３つの研究領域のうち「学校と学校外との連携に関すること」を選択し、令和５年４月に採択されました。本市を含め、全国では９つの大学などの法人や教育委員会が採択団体として決定を受けています。 お話があったとおり、特定分野に才能がある児童生徒をどのように支援していくかを検証することが今回の研究事業です。詳細については現在検討を行っていますが、今回の研究事業では、本市の地域特性を活かした取組とするため、学校と学校外の地域の力が連携した八王子らしい支援の仕組みを作っていきたいと考えています。 特定分野に優れた才能を有する児童生徒の把握については、今回は初めての試みなので、保護者からの応募を受け、教育委員会事務局による面談等を考えています。その上で、才能を伸ばしながらコミュニケーションスキルを身に付けるための適切な指導プログラムを調整し、一人ひとりに応じた指導の内容を充実させていきます。 令和５年度は実証研究事業の１年目として、成果発表を通して特定分野に才能のある児童生徒の成長を確認するとともに、更に効果的な指導を実施するための課題を明らかにして、令和６年度の取組を充実させていきたいと考えています。 八王子市は、全国でも有数の学園都市です。また、市民や各種サークル・団体等による自主的な学習活動・スポーツ活動・ボランティア活動が盛んであり、地域において生涯学習活動が活発に行われています。 本市の地域特性を活かした「八王子だからこそ実施可能」なものであり、関係機関と連携しながら他の自治体でも参考となる「八王子モデル」を構築していきたいと考えています。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		研究事業の成果については、児童生徒の活動前後の成長の様子や、制作した作品等で効果検証を行い、市民の皆さんにも活動の成果をお知らせしていく予定です。	
15	**【音楽、文化の面から豊かさを作る】** 永井　朋生 様 私は音楽家であり、打楽器奏者ですが、打楽器奏者と言っても、少し変わった活動をしています。世界中を旅しながら、その地で出会ったもの、その素材から音を見つけて、探して、楽器を作り、音楽を創って、パフォーマンスや作曲をする活動をしています。 世界中を回ってきましたが、コロナ禍で外出できず、地元八王子と向き合う機会をいただき、その中で、日本遺産の桑都物語のプロジェクトに参加させていただきました。 八王子の音にはどのような音があるのだろうかと、お祭りの音、木遣り、車人形の音、芸妓さんの演奏、蚕のそしゃく音、絹織物の音など、音の側面から研究をしました。小津倶楽部の皆さんにご協力いただき、木や石、竹など、地元の素材と向き合う機会をいただきました。今日は、音の面から八王子の魅力を伝えていきたいと思います。 八王子芸術祭の一環で、今後 10 年において、政策を進めていきますが、夕やけ小やけふれあいの里で、地元の材料だけで作った楽器の塊ができます。今年の６月から始まり、屋台骨だけができている状態ですが、ぜひ、子どもたちに参加してもらって、ワークショップを開催して一緒に楽器を作り上げたいと思います。 音というのは言葉で伝わりにくいもので、子どもたちと一緒に作った八王子産の竹とヒノキが、どのように響くかを紹介します。	先ほど、八王子産の竹で作られた打楽器の音を聞かせていただきましたが、よく聞く音楽とは違った独特な雰囲気で、楽器そのものの音に引き込まれる感覚がありました。「自然の音だからこそ、耳を澄まして聴きたくなる」といった印象を持ちました。 また、桑都日本遺産センター八王子博物館で流れている音楽についても、改めて聴いてみると、柔らかい音で構成された調べは、展示資料を観ながらでも心地よく耳に入ってくる、それでいて心に残る、自然の優しさや暖かみを感じる音がとても印象に残りました。桑都日本遺産センター八王子博物館は、この建物の３階にあるので、皆さんもぜひ、立ち寄っていただき、耳を傾けてお聴きいただきたいと思います。 さて、本市の「子ども・若者育成支援計画」では、「子どもの生きる力を育む遊びや体験の充実」を基本方針の一つに掲げています。これは芸術、音楽や読書などの文化芸術活動、スポーツ体験など、子どもたちの興味や好奇心、感性を育てる様々な体験活動を通して、社会性や自主性、創造性を培っていくことを目指しているものです。 また、芸術に関する取組として、八王子市学園都市文化ふれあい財団では、文化芸術の振興と伝統文化の継承を図るため、八王子芸術祭や八王子ユースオーケストラなどを開催しており、子どもたちが文化芸術活動に参加する機会となっています。 永井さんには、この八王子芸術祭に関わっていただいており、八王子産の木材を使	市民活動推進部 子ども家庭部 学校教育部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	例えば公共施設や空間に少しの音の響きがあるだけで、豊かで居心地の良い空間が生まれると思い、音をたくさんの方に聞いていただくために「公共施設の音のデザイン」に取り組んでいます。 デザインをした音を使用していただいている場所は、世界文化遺産の静岡県三保の松原にある文化創造センター「みほしるべ」。病気になった松原の木を使って楽器を作り、作曲した曲が館内音楽のデザインとして使われています。そのほか、和歌山県特産の紀州備長炭を使って作曲した曲が、ＪＲ西日本のきのくに線の 31 の駅のホームと待合室で流れていました。 日本では、公共施設のサウンドデザインはまだなじみが薄いのですが、ぜひ、八王子市でこういったことを始めて、それを聞いて育った子どもたちが市外に出て、また帰ってきたときに、八王子の響きだと感じてくれるようなことがあったら、八王子の音の文化の発信として、とても豊かになるのではないかと思います。	った打楽器の制作など、ご協力をいただいているということで、改めてお礼申しあげます。 小学校の「郷土学習」で永井さんにご協力いただいた、八王子産の木材や素材を使った楽器作りは、子どもたちが音や芸術に触れ、八王子に愛着をもつ機会となります。ものを叩いて音を出す行為は、子どもたちにとって馴染みやすく、また、演奏を通じて文化芸術活動に関心を持つきっかけになると思います。この体験は、文化芸術活動への関心を高めるだけでなく、ものづくりへの関心を高めることにもつながると思っています。 多くの子どもたちが「このまちに生まれ、育つことができて本当に良かった」と思えるように、永井さんには、引き続き、音や芸術に触れる機会の創出にご協力いただきたいと思います。	
16	**【駄菓子屋を入口とした子どもたちの居場所づくりの活動を始め、１年間を通して感じた現状と課題について】** 福島　裕美子 様 子どもの居場所づくりについて、お話をさせていただきます。団体名は「まほうのほうき」、お店の名前は「Yottette(よってって)」で、子どもの居場所となっています。２月 15 日号広報はちおうじの表紙で紹介されました。 代表が空き家を地域の市民活動に使いたいと話を進め、小津倶楽部に依頼し、レジカウンターや踏み台、本箱を作っていただくなど、人の手を借り、建物はほぼ手づくりでできています。 私が駄菓子屋を開いてみたかったこともあり、店舗の入り口を駄菓子屋に、奥に	「まほうのほうき」さんの活動は、令和５年５月にＮＨＫのクローズアップ現代で放映され、番組内では子どもの居場所としての必要性が強く取り上げられ、住民間の交流が疎遠になりがちな現代において、様々なつながりを生むコミュニティ施設の重要性を認識できるものでした。 駄菓子屋「Yottette(よってって)」は、子どもが意見表明をできる「子ども☆ミライ会議」の中で、自分たちの居場所として「駄菓子屋の設置」の提案があったことから、空き家を活用し、駄菓子屋を設置することを考えていた「まほうのほうき」さん	総合経営部 市民活動推進部 子ども家庭部 都市計画部 拠点整備部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ある８畳の和室を子どもの居場所にしています。活動を開始して１年と２か月余りが経過しました。 運営スタッフは全員ボランティアで、開設当初は10名だったスタッフが、今では、15～16 名に増え、元教師、看護師、保育士、シニアのボランティアの方々が交代で活動しています。 子どもの居場所として活動していますが、ボランティアである私たちスタッフの居場所でもあると痛感しています。 徐々に地域の子どもたちが集まってくれるようになり、毎日のように通ってくれる子どももいます。親でも先生でもない大人と会話ができたり、学校でも家庭でもない居場所があったりすることが、本当に子どもたちには必要だと実感しています。 活動は、英会話教室、高齢者あんしん相談センター子安と連携した高齢者向けのスマホ教室、子ども食堂の開催などです。市の広報やテレビ、ＳＮＳなどで、活動を取り上げていただいたので、見学にお越しになる方やお問合せをいただく数が増えています。私たちと同じように、子どもの居場所を作りたいという方がたくさんいることに驚きました。 しかし、多くの方が場所がなく、活動ができずに困っています。八王子市内には、空き家や空き店舗などがたくさんあるのではないかと思います。もっと地域で居場所を増やしていく必要があると思います。 市に、空き家や空き店舗を協力・提供していただけたら、もっと子どもの居場所が増えていくのではないかと思っています。	に相談したところ、その内容に関心を示していただいたことから、子どもたちとの意見交換会を実施して、子どもたちの声に寄り添う、身近に感じられる居場所づくりを実現していただけました。 施設整備後に実施したアンケート・ヒアリングでは、留守番をする子どもが一人にならないことや、世代間交流の場となることなど、「Yottette」が地域に様々な恩恵をもたらし、必要とされている施設であることが分かっています。 「Yottette」は、子どもを中心に置いた子どもの安全・安心な居場所づくりとして、また「空き家の活用」と「地域コミュニティの活性化」が実現した好事例と言えます。 地域の中で子どもを育てていくために、市や学校、地域が連携し、子どもたちが安心して過ごせ、様々な体験ができる場を増やしていきたいと考えています。また、市では子ども食堂や学習支援といった活動を行う団体が更に広がっていくよう取り組んでいます。37 ある中学校区ごとに地域づくりを進めていますが、すべての中学校区に活動団体があるようにすることを目標にしています。身近なところに子どもの居場所ができるように支援したいと考えています。 活動場所についての本市の支援は、活用希望者と所有者とのマッチングを支援する「空き家マッチング支援事業」や、空き家を集会・交流施設、体験・学習施設などの地域活性化施設として改修するための費用の一部を補助する「空き家利活用促進整備補助金」があります。 さらに「まちなか魅力づくり支援補助金」や「市民企画事業補助金制度」もあるので、こういった補助金も併せて活用していただければと思います。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		子どもの生活実態調査でも、子どもたちから、安心して過ごせる、勉強ができる居場所が欲しいという声が多く寄せられています。地域資源を活かしたまちづくりは、未来の地域活性化につながります。 今後も子どもたちをはじめ、地域の皆さんにとっても、身近な地域の中に居場所となる人と人とのつながりや機会を作り出し、多様で複合化した地域の課題解決に向け、地域が主体的に支えあい、行政と協働していくための仕組みとなる「地域づくり」を地域の皆さんとともに推進していきたいと思います。	

テーマ「市長と語る八王子の未来　～住民主体のまちづくりについて～」

令和５年（2023 年）７月８日（南大沢市民センター）

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
17	**【八王子市の市政提言発表会にて発表した八王子のまちづくりに関する提案を発表します】** 都立八王子東高等学校 内田　知希 様 宮川　悠斗 様 都立八王子東高等学校２年生、宮川悠斗と内田知希です。これから就職し、転出する人をどう止めるかということで発表していきます。 八王子市の現状ですが、少子高齢化と生産年齢人口の減少で、人口減少が起きています。その原因の一つとして、20 歳から 29 歳までの転出者数が転入者数を上回っており、就職のタイミングで転出していると考えられました。人口減少が市税収入に直結するので、若者の転出を止めるための対策を考えました。 八王子市の東部地域には大学生が多く、若者の転出が多い地域です。東部地域は都心まで 50 分程度で行け、交通の便が良いのに、なぜと疑問に思いました。 そこで、考えたプランは社会人や大学生が取得したいと考えるような人気の資格の試験や模擬試験の会場を市内に設置して、学園都市の強みを活かすことです。社会人だけでなく、学生も使えるような生涯学習センターや学園都市センターなどの公共施設を利用して、無料の自習環境を開放する。経験も重要になるような資格では、市内の企業に協力してもらい、専門的な知識と経験を得られる機会を作ることで、社会人や大学生に対して勉強や資格が取りやすいという環境を作ってあげるということを考えました。 具体的なアピールポイントについては、受験資格に影響するような資格において	高校生が、八王子市について自ら調べ、課題を発見し、解決に資する取組を検討、提案してくれたことを大変うれしく思うとともに、頼もしさを感じます。卒業後の定住促進を課題として挙げている点はとてもすばらしい視点です。 皆さんに調べていただいたとおり、学生が大学等を卒業後に本市に定着しないことは、本市でもかねてから課題と認識しています。 令和４年度に相模原市・町田市・八王子市の三市で学生に向けて行ったアンケート調査でも、転出理由に「働きたい職場が遠いから」と挙げる学生が多く、就職先と転出に相関関係があると考えています。 そのため市では、八王子で就職するための情報サイト「はちおうじ就職ナビ」を公開し、八王子で働く魅力を知ってもらうため、動画や画像で市内企業を紹介するなど、就職支援を行っています。 このほか、大学等を卒業した後の市内定住を促進するため、在学中に貸与を受けていた奨学金の返還に対して支援金を交付する「定住促進奨学金返還支援事業」も開始していますが、学生が卒業後、本市から転出する理由については様々あると思われますので、若者の定住についてはどのような施策が有効なのか、今後も、検証、調査を行う必要があると考えています。 「試験会場を市内に設置する」ことについては、珠算検定や英語検定、日商簿記な	市民活動推進部 産業振興部 生涯学習ｽﾎﾟｰﾂ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	は、市内の企業の協力の下で実務経験を積むことの補助や、資格取得後の企業の受け入れ、入社試験に対する援助など、八王子市内の大半の産業の事業者数、従業者数の減少という現状を踏まえた上で、資格取得者が入社することで、市内の産業を活性化できるのではないかと考えました。 また、八王子というまちは、子育てに適したまちで、核家族が住む環境においては非常に適していますが、大学を卒業すると転出してしまう方が多くいます。そこで、一人暮らしの学生世代から家庭を持つ世代までの間、住み続けてもらうための、補完的な役割として次のような提案をさせていただきます。 資格試験や模擬試験の会場を市内に誘致して、市内の学生や社会人がより充実した生活を送れるように試験を受けやすくする。また、学生を呼び込む政策として、核家族を呼び込む政策と一体化させ、八王子で生涯を過ごしてもらえるようなプランを作るということ。そして、無料で市の施設を自習室として開放する、もしくはサブスクリプション方式にして民間の塾などと連携し、自習室を整備するというプランです。 今後は、東部地域のようなもともと学生が集まる地域だけでなく、西部などの学生があまり来ない地域に若者をどう呼び込むかという課題解決や、資格以外にも若者を呼び込む政策がない限り、大学生と核家族の世帯をつなげるというのはなかなか難しいのではないかと思います。 最後にこの八王子東高校の探求という活動を通して私たちはグループでお互いに議論し合って、このようにプランを考えることの大切さを学んだり、市の職員や京王電鉄の社員から様々なアドバイスをいただいたりして、このようなすばらしい発	ど、各種資格試験が、商工会議所や市内の各大学などを会場にすでに実施されています。 また、市で管理している公共施設については、多くの市民が利用を希望しており、予約も取りづらい状況にあります。施設の設置目的や公平な利用の観点から、試験会場として優先的に利用することは難しい状況でありますが、民間施設や昨年 10 月に開業した東京たま未来メッセなどを資格試験会場などとしても紹介していきます。 資格取得のためとまではいきませんが、市ではあらゆる講座を行っています。受講のために八王子に来ていただいた際に、少しでも八王子の魅力が伝わるようなまちづくりを目指していきたいと思います。 次に「公共施設を学習室として無料で開放してほしい」という要望についてですが、皆さんのお話にもありましたとおり、生涯学習センターでは、学生のための自習室を無料開放しています。そのほか市内９つの図書館では、図書館の資料を使って調査研究するための閲覧席が設置されており、中央図書館では事業の開催状況に応じ、施設を自習室として無料で開放しています。 令和８年度には八王子駅南口に 100 席以上の自習スペースを備えた「集いの拠点」が開館する予定ですので、開設した際には、ぜひ、利用してください。 最後に「専門的な知識と経験を得られる機会を作る」というご提案ですが、本市では、学園都市である特性を活かして、大学等が持つ知見を市民に提供する生涯学習講座「学園都市大学（いちょう塾）」を運営しています。その中では、社会人の学び直しにつながるような講座の提供を検討しています。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	表を作り上げることができました。 　これらのことを活かして、今後もこのような活動を積極的に行えたらいいなと考えています。	また、令和５年３月に策定した「八王子市産業イノベーションプラン」では、大学や市内中小企業等と連携し、技術革新やビジネスモデルの変化に対応するための新しい知識やスキルを学ぶリスキリングや、社会人の学び直しを行うリカレント教育の促進を図ることとしています。 　事業化の検討はこれからですが、学生が専門的な知識と経験を得られるような仕組みができるよう、市内中小企業へのインターンシップの促進を検討していきたいと思います。 　地域の発展には、活力ある若者の定住は大変重要です。大学入学時に縁あって本市に転入した学生が、卒業後も本市に魅力を感じ、住み続けていただけるよう、若者の定住促進に向け、今後も取り組んでいきます。 　そのためには、次世代を担う若者の声を反映していく必要性を強く感じています。ぜひ、高校生の皆さんには、日ごろから地域に関心をもってもらい、八王子をより住みやすいまちにするための提案や行動を期待しています。	
18	**【地域防災の在り方について】** 花形　豪 様 　私からは、八王子の地域の防災に関すること、そこにおける住民主体のこと、それに関する市の後押しや、また直接的なご支援について、市長のお考えをお伺いできればと思います。 　私は、市立長池小学校の避難所運営会の事務局長を担わせていただいています。八王子市には、小学校、中学校、広域避難場所が約 135 箇所あるかと思いますが、避難所運営会というのは、大体 16～20 箇所ぐらいの設立で、およそ 12～15%くらいという、約１年前に調べたデータがあります。	花形さんからは、震災発生時における避難所運営の課題についてご発言いただきました。 　本市は平地から山間部といった地形や、住宅団地や高層建築物、木造密集地域といった地区の特性が様々であり、それぞれの特性に合った避難所運営のあり方や、地域の方々との協働による取組が必要であるという思いが伺えました。 　地域特性への考慮ということについてですが、本市では、市職員向けに地震災害を中心とした避難所を開設するためのマニュアルとして、避難所運営マニュアルを	生活安全部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	今後「八王子未来デザイン 2040」にもありますように、地域のつながりやみんなで支え合うために、実際に震災が起きたときには、長池小学校避難所運営会をどのように運営していくべきなのか、考えています。 ご参考までに、千葉市の情報をお伝えしますが、人口面積共におよそ 1.5 倍ですが、避難所の総数は八王子市の 135 箇所に対しまして、千葉市は２倍の 270 箇所、避難所運営会の設立率は、千葉市においては 98.5%と、ほぼ各避難所に避難所運営会が設立されています。 避難所運営会への補助金制度も、千葉市は年間３万円までという支援体制が既にありますが、八王子市にはありませんでした。また、八王子市のホームページでは避難所運営マニュアルが掲載されていますが、千葉市においては事例紹介や動画などもあり、非常に充実した広報活動を実施しているようです。 冒頭の市長のご挨拶の中でもありましたが、この地域は多摩丘陵で地盤も強固で新耐震基準を満たしていて、なかなか震災の意識が高まりにくいようなところもあるのですが、一方で八王子市全域からしますと、山間部や浅川流域などの浸水被害の懸念がある場所もある中、今後、発生するおそれがある首都直下型地震に関する市民の安心安全を考えますと、まだまだ避難所運営会、またはそれに対する支援が足りていないのではないかと活動している仲間の皆さんと考えています。 市民が主体になって進めるということですので、住民がそれぞれに考え避難所運営をどうしていくのか、また地域特性を踏まえ、市からの支援はあるのか、場合によっては補助金の設立をする、そうしたことに関して、広報を充実させる、市全体とし	作成していますが、地域特性に応じた危険の違いや、避難の手法などには対応していません。 災害発生時に行政だけで全てに対応することは困難なため、地域の特性に対応するには、地域の実情を把握している地域住民や事業者、自主防災組織などの力が必要です。 例えば、この南大沢地区では、南大沢五丁目の 13 の自主防災組織で構成する「南大沢五丁目防災協議会」が地域特性に応じた活動を定めた「地区防災計画」を作成しています。この計画の中では、強固なマンションが多く、住宅の倒壊等の被害が少ないと見込まれることから、避難者が多く発生しないという地域特性を考慮し、行政等からの情報収集や支援物資の受取拠点としての機能を備えた避難所とするよう定めています。 本市では、このような地域特性に合わせた計画を「地区防災計画」として認定し、その活動を支援しています。 また、避難所運営に対する支援については、本市では市内自主防災組織等に対して財政的な支援は行っていませんが、防災資材の支給を２年に１回、行っています。 これは、災害時の防災活動や避難所運営においては、物品の供給が滞ることによる弊害が考えられることから、事前に物品を拡充しておくことが防災活動においては効果的であるからです。 市内には令和５年６月現在で 450 団体の自主防災組織が結成されています。これら多くの組織が、災害時において十分な力が発揮できるよう、引き続き支援していきます。 災害弱者の大きな課題としては、自力での避難行動が難しいということがあります。さらに、住民同士のつながりが希薄な	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ての地域防災を高めていくことにぜひご支援、お力添えをいただければ、八王子がより住み良いまちになっていくと思います。	場合には、高齢者や障害者といった要配慮者の安否や避難しているのかどうかも分からない状況が生まれてしまうおそれがあります。食料等の支援物資の供給については、在宅避難の場合には、正確な情報の伝達や支援物資のニーズの把握が重要になってきます。 　このような状況に対応すべく、自主防災組織等には、災害時に地域住民が互いに協力して組織的に活動できるよう、平時から、地域での要配慮者の把握や、情報共有の方法の確認など、防災訓練等を通じた災害時の対応の強化を図っていただきたいと思っています。 　地域特性に応じた避難所運営などの取組は、防災対策において不可欠なものと思っています。すでに一部の地域では、「地区防災計画」を策定し要配慮者への対応を規定するなど、防災の取組に積極的な団体があります。 　本市としては、このような取組が更に広がっていくことが重要だと考えており、引き続き、防災対策の啓発に取り組んでいきます。	
19	**【子育て世帯が「まちづくり」に主体的に参加するために】** 久保田 菜々子 様 　「ぽまるのおうち」という団体の代表をしています。「ぽまる」はチェコ語でゆっくり、のんびりという意味があります。時短ですとか、効率化というようなことに重きが置かれる現在、時間にとらわれずに、今という時間を大事にする子どもたちの感性に、大人がもっとゆっくりのんびり向き合っていけるような時間を作りたいと思い「ぽまるのおうち」を立ち上げました。 　活動場所は南大沢近隣の公園で、親子が気軽に参加できるアートワークショップイベントなどを開催しています。ぽまるの	久保田さんからは「ぽまるのおうち」で開催するワークショップを通して、子どもと大人が多様な価値観に触れる機会を創出していただくなど、地域に密着した活動に貢献していただいており、感謝を申し上げたいと思います。 　また、久保田さんには多くの活動団体や住民の皆様とともに地域の現状などを把握し、地域課題を解決する手法などを検討する南大沢中学校区地域づくり推進会議にもご参加いただいておりまして、重ねてお礼を申し上げたいと思います。	総合経営部 市民活動推進部 子ども家庭部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	イベントでは子どもだけではなく、大人も全力で一緒に遊んでいただき、一緒に何かを作ったり、歌ったり、踊ったりする中で、大人も子どもも楽しく開放的になれるような場づくりをしています。 子どもも大人も開放的になると、自然とコミュニケーションが生まれるので、参加している親子が顔見知りになって、帰っていただくことを大事にしています。 今年の４月からは、「ぽまる場」という子どもの居場所づくりも行っています。コロナ禍を経験して、地域のつながりがより希薄になり、子育てが閉じ籠った家庭の中で行われているけれど、もっと地域に開いて、みんなで子育てをしても良いのではないかという思いで「ぽまる場」をスタートしました。 活動は週１回、放課後の時間に団地の集会所を開放して、遊びに来てくれた子どもや親子と一緒に工作やおしゃべりをします。必ず一緒に夕飯を作り、みんなで食べます。忙しい家庭に子どもの生活体験全てを委ねるのではなく、地域の中で担っていく必要があるのではないか、と強く感じているところです。 また、まちづくりにおいてどんなにすてきなビジョンやスキルを持っていても、仕事と家庭で毎日が光のように過ぎていく子育て世帯にとって、そこに主体的に参加していくことはかなりハードルが高いと、自分自身も含めて強く思います。 「ぽまるのおうち」の活動を通して、自分たちの生活圏の中で無理なく楽しく、みんなで緩やかにつながれる、ほんの少しのきっかけがあるだけで、自分もこの地域の一員なんだという気づきや、主体的に関わろうとする原動力が自然と生まれてくるものではないかと感じています。 市長を含め、市の方々には資金的な面や	さて、写真の中では子どもだけが活動するのではなく、その保護者も一緒になって取り組んでいる姿が見られました。お話にもありましたが、単に子どもの居場所だけでなく、子育て中の方がつながる場所にもなっていて、さらにそこで行う様々なイベントごとに、地域の方が関わっており、地域の中で子どもを育てている様子がうかがえたところであります。 お話いただいた場づくりについては、本市では地域の中で子どもを育てていくために、市や学校、地域が連携し、子どもたちが安心して過ごすことができ、様々な体験ができる場を増やしていきたいと考えています。そのため、このような居場所の提供といった活動を行う団体が更に広がっていくよう、団体の活動支援をする地域子ども支援事業を実施しています。 本市に登録をしている団体同士が連携を図るための情報交換や、地域や企業等と連携できる機会の提供など、身近なところに子どもの居場所ができるよう、団体に支援を行うものでありますので、このような支援をご活用いただければと思います。 次に、子育て世代がまちづくりに主体的に参加するための支援についてですが、本市の市民活動支援センターでは、地域で様々な活動をしている団体と活動をしてみたい方をつなぐ取組を実施しています。子育て支援の分野では、子育て中の方々と地域で子育てサポートしている団体などが意見交換をする交流会の開催や、新たに活動を始めたい方には、ライフスタイルに寄り添った活動の提案を行っています。 また、団体の運営や活動資金確保に関することなど、市民活動に関わる様々な相談をお受けしていますので、ご活用いただきたいと思います。 この他、コミュニティ活動を応援するウ	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	人的な面において、こうした場づくりへの理解と支援をぜひお願いしたいです。また、子育て世帯がどうしたら主体的にまちづくりに関わっていけるのかということを、ぜひ一緒に話し合いながら考えていただけたらうれしいと思います。そうすることでもっとよりすてきで多様な活動が生まれてくると思っています。	ェブサイト「はちコミねっと」でも、様々な活動団体や仲間を気軽に探すことができますので、「はちコミねっと」をご覧いただいて、地域とつながるきっかけを見つけていただければと思います。 昨年度実施した子どもの生活実態調査においては、相談できる人がいないと回答する保護者が一定数おり、「ぽまるのおうち」で行っている「子育て世代が地域でつながるための活動」は、地域の方が集まる居場所づくりや地域の活性化にもつながるものと考えています。このような身近な地域の中に、居場所となる人と人とのつながりや機会を作り出す活動は、本市が推進する地域づくりにもつながるものだと思います。今後も市民の皆様の声を聞きながら、地域全体で子どもを育て、その成長を喜び合えるようなまちづくりを推進していきたいと考えています。そのためにも、久保田さんをはじめ、地域の皆さんのお力というのは大変重要となりますので、ぜひお力添えをお願います。	
20	**【八王子の中の南大沢のこれから】** 平野　雄司 様 私は、東京渋谷から転居してきまして、もう 30 年ぐらいになります。八王子の人口の大半は、私みたいに、別な地域から来られた方が多いのではないかと思います。 たまに、地元に住んでいる子どもを相手に話をしますが、子どもたちに郷土愛というものが生まれていないと感じるので、子どもたちと話をするチャンスをたくさん作っていこうと考えています。 例えば「おおくりがわ」という川が流れていますが、私はうっかりして「おおぐりがわ」と濁ってしまったら、地元の方に怒られました。私はその失敗話が楽しくて「おじさんも失敗したんだよ」と子どもたちに言うと、「僕知らなかった」「私知らな	「郷土愛を育むこと」や「若い世代にニュータウンの文化財を広めて」とのご意見ですが、例に挙げていただいた、「メカイ活動」は、「南多摩のメカイ製作技術」として、令和５年３月、東京都の無形民俗文化財の民俗技術部門で「八王子由木メカイの会」と多摩市の団体が、保存団体として都の指定を受けました。 メカイとは、文字では「目籠」と表記する、多摩地域で自生する「篠竹」で編む籠のことを指します。メカイは、江戸時代から昭和前半まで、南多摩地域の多くの農家で重要な収入源として作られてきました。 生活環境の変化でこの技術を受け継ぐ人が少なくなりましたが、現在もこの地域	生涯学習ｽﾎﾟｰﾂ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	かった」「おじさんいいこと教えてくれるね。うちに帰って、おじいちゃん、おばあちゃんに話をしてみる」と言います。ですが、ニュータウンができて50年ですから、そのおじいちゃんとおばあちゃんはここで生まれ育ったわけではなく、私と同じように、市外から移って来た方なんです。子どもたちにそういうことを少しずつ知ってもらって、八王子の南大沢を大好きになってもらいたいです。 先ほど、若い方が卒業してもここで就職して、ここにいたいという話をされていましたが「市外から移って来た方が私の住むまちは良いまちだ」という感覚になっていただきたいなと思っています。こういった方たちに、新しい郷土愛を育む姿勢を明確にしてほしいです。 次に、日本遺産の話ですが、11 月に開催する日本遺産のイベントですが、高尾山人気に頼りすぎているような傾向があると思います。高尾山ばかりに依存せず、近隣市との連携を強化して開催してほしいです。 今後、新しい新幹線が橋本に停車する予定ですし、この南大沢は、まちが発展する要素があると私は期待しています。ここは良いところです。若い世代の方に、メカイ活動などのニュータウンの文化財を知ってもらって、大事にしていってほしいと思います。	では活動が続いています。本市でも体験講座などを開催し、メカイの保存活動やその魅力を発信していきます。 次に、日本遺産フェスティバルは「高尾山人気に依存しないように」とのご意見についてですが、本市の日本遺産のストーリーを構成する文化財には、高尾山薬王院をはじめ、八王子車人形や八王子芸妓などの伝統芸能、八王子城跡、滝山城跡といった史跡など、29 の有形・無形の文化財を位置付けています。これらの魅力を広く発信する企画の検討を、現在、進めています。 また、ニュータウン地区の文化財についてですが、29 の日本遺産構成文化財に鑓水にある「諏訪神社の文化財」を加えるよう、文化庁に追加申請しており、鑓水商人の繁栄を実感できる有形文化財を構成文化財に追加することで、日本遺産認定ストーリーの魅力を高めるものです。 このように、地域全体の文化財の魅力について、様々な機会を通じて、より多くの、多様な世代の方々に発信し、活用を図っていきたいと考えています。 近隣市との連携については、日本遺産フェスティバルの開催を起点に、共通する構成文化財をテーマとして、近隣市に限らず、県域を超えた都市間の連携の機会となることを期待しているところです。 平野さんからお話しがありましたとおり、文化財の魅力を発信し、多くの方に知っていただき、郷土愛を育むことは、市としても大切であると考えています。	
21	**【伝統文化「八王子まつり」を体感して地域活性化につなげる】** 伊藤　健人 様 私は、八幡町で生まれてからずっと八王子に住んでおり、今は八王子まつりの件で、地域活動を行っています。主に、山車の巡業を取り仕切る青年会に所属をして	ご提案いただいた、より多様な方に参加していただく仕組みづくりについてですが、八王子まつりは、もともと八幡八雲神社の「下（しも）」と多賀神社の「上（かみ）」	生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	いますが、年々会員数が減少しており、ほかの団体や町会の青年部も同じような状況です。そのことについて、感じていることをお伝えします。 新型コロナウイルス感染症が拡大する前までは、八王子まつりは年々、来場者数がとても増え続けており、私はまちの活気を創出する八王子が誇る一大イベントだと思っています。 ただ一方で、お祭りを行う側として、山車の巡行を取り仕切る町会、青年会、そして山車を引く引き手の子ども、みこしの担ぎ手の人手不足や担い手不足が課題となっています。 様々な原因があると思いますが、私がよく耳にすることは「興味はあるけれど、参加する方法が分からない」というものです。そのような方々に、参加できる機会の創出が必要だと私は考えています。 会員を増やす方法として、我々の団体は会員が会員を紹介する方法で行っていますが、そこには限界があると思っているので、市の広報やインターネットなどで、参加したい人と団体をつなぐ仕組みのようなものがあれば良いと思います。 八王子まつりは、八王子の伝統文化を感じることのできる非常に重要な行事だと思っています。お祭りに参加して、伝統文化を体感すれば八王子を誇りに思う人が増えると思いますし、また、まちを思う人が増えれば、まちづくりや地域活動に参画する人が増え、ひいては地域の活性化につながると信じていますので、ぜひ、この課題に向き合ってほしいと思っています。	のそれぞれの氏子である町内のお祭りを源流としていることから、現在も山車の巡行やみこしの渡御は、町会を中心として運営されています。こうした経緯を踏まえると、町会以外の方に参加いただくことについては、それぞれの町会の考えにもよるかと思います。 一方で、少子高齢化の急速な進展や、町会への加入率の減少などにより、担い手の高齢化や減少が進んでいる現状があり、伝統文化の継承に向けた対応が課題であるとも考えています。 市では、伝統文化の保存活用の視点から、「八王子まつり」をテーマに取り上げ、令和５年度から、法政大学の社会学部と共同調査を行います。学生が八王子まつりに関わる機会を通じて、次世代へのまつりの継承への一助にしたいと考えています。 この調査の過程では、八王子まつりに参加している町会へのヒアリングも行うので、町会外の方々が参加することについて地域の皆さんの意向もお聞きし、伊藤さんからいただいたご提案の内容を踏まえた、今後の取組につなげていきたいと考えています。 八王子まつりだけではなく、地域の歴史や伝統文化の魅力を知っていただき、まちづくりや地域活動に参加する意識の醸成や行動につなげ、その担い手となって地域の活性化に取り組んでいただくためにも、伝統文化に触れられる機会を提供していきます。	
22	**【より多くの外国人留学生・就労者の受け入れと、よりよい就職、日本語教育や生活のサポート推進】** 長谷川　隆 様 私は若い頃、青年海外協力隊でネパール	企業への一定期間就労を前提とした奨	市民活動推進部 学 校 教 育 部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	におり、その後もネパールの方を中心に、日本で学びたい方や働きたい方を支援する活動をしてきました。八王子市として助けていただきたいと思うことがあるので、お伺いします。 その一つは、奨学金の基金を作り、途上国から、日本で学びたい方へ奨学金を与えるというものです。単に与えるのではなく、日本で学んだ後は、日本の企業で５年間働くという条件で、その企業で働きながら奨学金、授業料を返還し、市の負担は少ない方法で奨学金制度を作っていただくことを提案します。 多くの外国人に来てもらうことが必須である理由の一つに、生産年齢人口が非常に減っており、生産年齢だけでなく、今のままの人口を 2040 年まで維持するためには、75 万人の移民を毎年受け入れないと維持できないという話があります。 また、外国人にとって日本語は、漢字や敬語が難しく、日本語を上手に話せないと就職が難しいという状況もあります。 金沢市や岡山県では成功例もあり、介護の専門学校と介護施設が連携して、学校の授業料を無料にし、卒業後に施設で５年間働くという条件の奨学金制度を実施しています。八王子市としても、ぜひこのような制度を実施していただけるとうれしく思います。 そのほか、在留外国人に対して、日本語教育や医療・教育のサポート、市立の日本語学校・インターナショナルスクールの設立などを考えていただけると大変うれしく思います。	学金基金の設立に関して、本市で行っている留学生への支援事業についてお話させていただきます。 平成元年度から令和２年度まで、留学生の経済的負担を軽減するため奨学金制度を実施していましたが、令和３年度からは、経済的支援ではなく、より生活に密着し日常生活の不安を解消する支援へと変更しました。 具体的な支援内容は、留学生の「安心なくらし」の支援として、保証人を代行してもらう制度を利用した場合の「住居賃貸代行保証料への補助」や、生活するうえでトラブルが多い「ごみの出し方」の支援、就職時に必要な日本語力の目安となる「日本語能力試験」の受験料の補助を行っています。 そのほか、地域との交流意欲がある留学生に地域活動への参加を促すなど、留学生ならではの視点や能力を活かし、留学生が「助っ人」として地域で活躍してもらう支援を行っています。このような地域で活躍してもらう仕組みは、地域の理解や地域活性化にもつながり、本市への愛着が醸成されると考えています。 日本語教育の支援については、習得の支援を行うため、生涯学習センターでの日本語教室の実施や、ボランティア団体などと連携して、支援の充実を図っています。 また、お子さんが日本語によるコミュニケーションが難しい場合には、初期指導として一定期間、在籍する学校に外国語の会話ができる支援者を派遣しているほか、小学校２校、中学校１校に日本語学級を設置し、日本語指導を行っています。 就職のサポートについても、八王子商工会議所と連携し、支援の幅を広げていくよう努めているほか、より効果的に行えるように、国や東京都の情報提供も行っていま	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		す。 　このほか、外国人のための相談窓口として、学園都市センター内に「在住外国人サポートデスク」を設置しているほか、広報紙や外国人向けの暮らしの便利帳など、行政情報の多言語化や「やさしい日本語」を普及していくなど、外国人市民のコミュニケーション支援、生活支援に取り組んでいます。 　様々な分野での生活支援の充実を図り、外国人であることを理由に不自由を感じることなく、安心して暮らすことのできるまちを目指していきたいと考えています。	
23	**【八王子市街地の衰退原因は何かと捉えておられるか】** 井上　博正 様 　私は市長と同い年でして、八王子で生まれ、同じ景色を見ながら今日まできて、65歳になりました。振り返ってみると、昭和54 年に伊勢丹が閉店し、そこから下降線が始まった第一歩だったと思っています。復活するだろうと固く信じていましたが、デパートと映画館がなくなってしまい、私も商工会議所や商店研究会、連合町会などを通じて、一生懸命、まちの復活のために骨を折っていますが、つい最近、八日町の三菱 UFJ 銀行が閉店することになりました。ここは前身の川崎銀行を入れると、143年間、銀行だった場所です。市立第二小学校が取り壊されることになると、同様に143 年間の歴史が閉じます。 　市長は、衰退の原因は一体何だと認識されているのでしょうか。もしも我々の認識と、市の認識が違っていたら、それぞれ別の方向に向かって戦っても、勝てるものも勝てません。 　決して、できない理由は探さず、これからも八王子を復活させるために頑張っていきたいと思っています。	中心市街地の現状への私の認識についてですが、本市の中心市街地は宿場町として栄えた甲州街道沿道と、ＪＲ八王子駅及び京王八王子駅周辺の駅前型商業とが、良好な競争関係のもとで発展してきたと認識をしています。ただ、井上さんが危機感をお持ちのように、郊外型ショッピングセンターの立地や住宅街の広域的拡大、都市間競争激化のあおりにより、大型店が撤退・閉店し、駅周辺の商業力が低下した時期もありました。 　一方で、「サザンスカイタワー八王子」の開業をはじめとする八王子駅南口の再開発や、そごう八王子店跡地への「セレオ八王子店」の開店により、駅周辺で新たな商業の中心が形成されてきたところです。 　現在、中心市街地内には中高層住宅の立地が進展し、ファミリー世代を中心とした新たな住民が増えてきています。これにより、訪れる人だけではなく、住む人にも必要な機能も兼ね備えた中心市街地へと、まちの役割が大きな転換期を迎えています。 　また、中心市街地には、歴史と伝統のあ	拠点整備部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		る魅力的な個店が多く立ち並んでおり、近年は個々の商業者や市民により、西放射線ユーロードを中心として新たなイベントや勉強会が多く開催されるなど、活性化に向けた取組が活発になっています。このような、市民自らが取り組もうという強い姿勢が、今後の中心市街地活性化にとって必要な要素となると考えています。 南大沢地区と同様、中心市街地は多摩地区の主要な商業・生活サービスの中心として重要な役割を果たしており、本市の顔のひとつでもあるので、多くの人が訪れ、まち全体が賑わっていくことはとても大切なことであると考えています。そこで、これまでに八王子駅北口では、「マルベリーブリッジ延伸工事」や「ユーロード景観舗装工事」、「まちなか休憩所八王子宿や桑都テラスの整備」などの事業を進めてきました。 また、八王子駅南口で、まちの歴史の一端を歩んできた医療刑務所が、新たな「まちのシンボル」として、学び・交流・防災の３つの機能を備えた公園・ミュージアム・ライブラリ・交流スペースに生まれ変わります。今後は、自宅でも、学校・職場でもない、居心地の良い「市民のサードプレイス」を整備することで、八王子駅南口だけでなく北口との相乗効果を図り、中心市街地全体を更に活性化させていきたいと考えています。 さらに、東京たま未来メッセ開業による相乗効果でイノベーション創出につながる多様な取組が展開される魅力的な空間を創出するため、現在、メッセの正面玄関前にあたる保健所跡地に都市型広場の整備に取り組んでいます。 今後の取組を進めるにあたっては、民間事業者が持つアイデア・ノウハウを中心市街地の活性化につなげていくことが必要	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		であると考えているので、井上さんにおかれましても、引き続きご協力をお願いしたいと思います。	
24	**【観光案内所などの手話通訳対応】** 是枝　行子 様 私は聴覚障害者です。名前を是枝と申します。代わりに手話通訳が読み上げますので、よろしくお願いします。 私は障害のある人もない人も、共生できる社会、それを広めていきたいと思っており、観光案内などの施設で手話通訳の対応をしてほしいと思います。 コミュニケーションの多様性を尊重し、共生社会を目指し、手話が必要な方たちのコミュニケーションが円滑にできるよう、手話講習会など、私たちも一生懸命活動しています。 八王子市には、観光案内所などがいくつかあると思いますが、日本遺産の高尾山にもあります。とても有名で、たくさんの方が訪れます。私たちも気軽に行けるその場所に、聞こえない方などもたくさん訪れている状況です。 以前は高尾ビジターセンターに手話のできる職員が常駐しており、好評でした。しかし、現在は人事異動があり、ビジターセンターには手話のできる職員はいません。手話ができる職員を配置していただけるよう、よろしくお願いします。 また、高尾山以外の観光案内所の職員に対して、手話講習会を実施するなど、八王子市の活性化につなげるために実現していただきたいと考えています。	是枝さんには、市が実施する手話講習会に多大なご協力をいただいており、手話の普及に尽力いただいております。 また、本市の身体障害者相談員も歴任されており、聴覚障害者の困難事例に関して、親身に相談に乗っていただき、本市の聴覚障害者への福祉の向上の一端を担っていただいております。市政へのご協力に対し、改めてお礼申し上げます。 さて、お話しいただきました高尾ビジターセンターは、高尾山山頂にある東京都の自然公園施設です。センターには解説員が常駐しており、展示や解説、様々なプログラムなどを通じて高尾山の自然や歴史、人と自然との関わりなどに関する情報を提供しています。 ご指摘のとおり、現在は筆談での対応と聞いています。年間 300 万人が訪れる高尾山ですが、センターにも多くの利用者がある中で、筆談が困難な方もいらっしゃると聞いており、市としても手話通訳の必要性を感じているところです。今回いただいたご意見については、センターの設置者である東京都にお伝えさせていただきます。 また、本市が市内３箇所に設置している観光案内所では、現在筆談での対応を行っています。手話で対応ができるまで、ある程度の期間が必要ですが、観光案内所で業務に従事する職員に対し、手話に関する研修の機会を設けるなど、人材育成に努めていきたいと思います。 本市は、是枝さんをはじめ、多くの方のご協力をいただきながら、市内在住・在勤・在学の方を対象とした手話講習会を実施	福祉部 産業振興部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		するなどの取組を行っているところです。 手話を必要とする方が社会参加しやすい環境を実現するためには、手話に対する理解促進を更に図るとともに、市民でなくとも、市内在勤・在学の方も手話講習会を受講できることを広く周知し、市内企業・事業所の多くの方に受講していただける環境整備の必要性を感じています。 　市としても、今後も様々な施策を推進していきたいと考えていますので、是枝さんにおかれましても、引き続きご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。	

5　過去の提案等取組状況

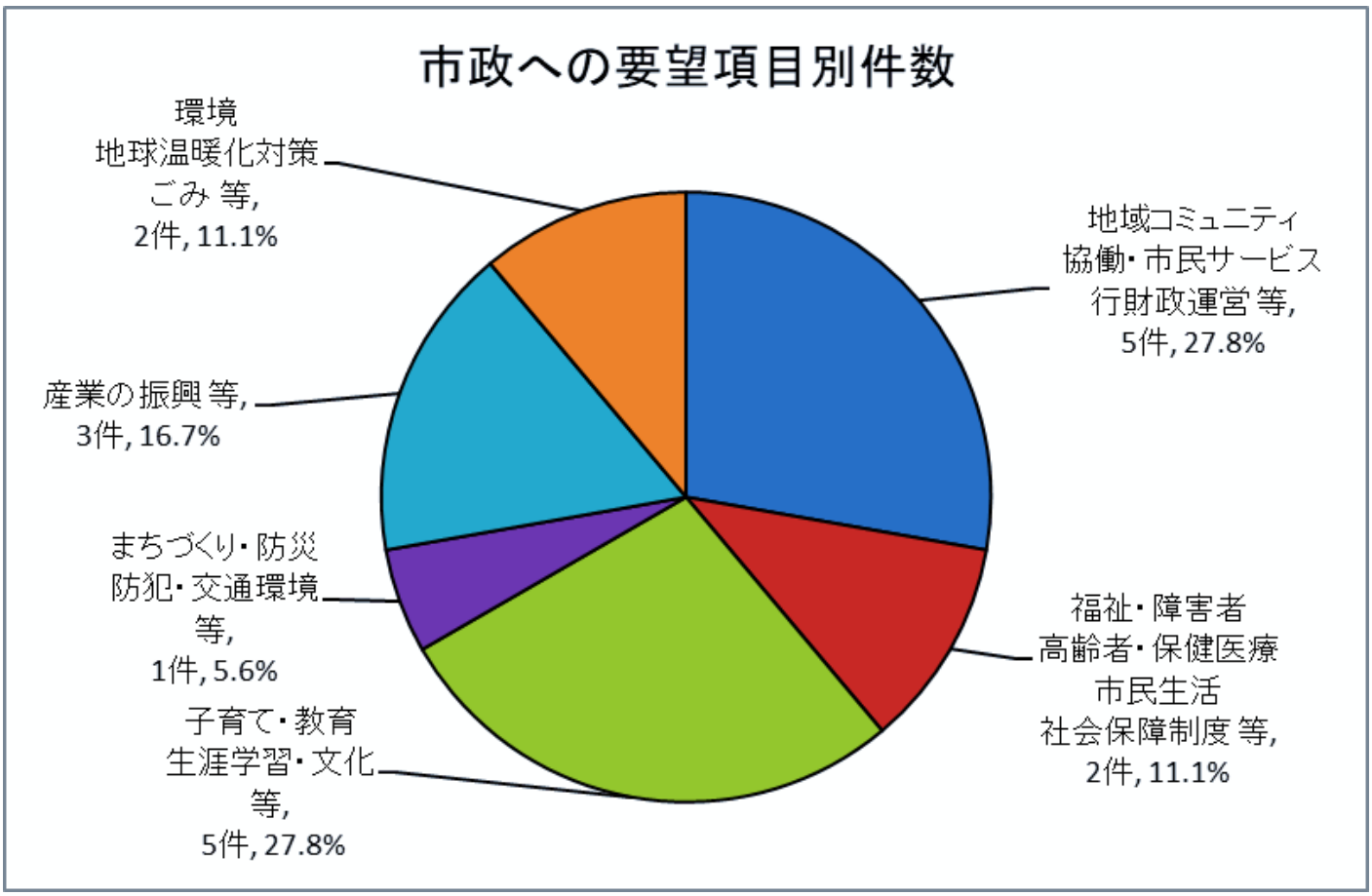
令和４年度（2022 年度）「市長と語る」の提案等取組状況

開催実績　テーマ：「私が行っている八王子の地域づくり」

（単位：人）

開催日	会　場	テーマ	発言者数
8月 21 日	WEB による開催	「私が考える未来の八王子」	9

※　視聴用サテライト会場：八王子駅南口事務所（先着20名）



次ページから、令和４年度（2022 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況の一例をご紹介します。

令和４年度（2022 年度）「市長と語る」でいただいた
ご意見・ご提案と市の対応状況（一例）

＜意見＞　「大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動」について

大栗川キャンドルリバーは、由木エリアの子どもたちに「自分たちの地元は八王子なんだ。すてきな街なんだ」と、大人になっても思ってもらいたいと思い、住民で 2015 年から始めたイベント。自主参加であるため、人が集まりにくいこと、八王子市の緑道等の使用許可が複雑と感じていること、完全ボランティア活動のため近隣企業から募る協賛金の資金面が毎年の課題となっている。

≪市長発言（当日）≫

大栗川キャンドルリバーのように多くの方を魅了する美しい風景は、まちへの「誇り」「愛着」「共感」をもち、まちのために自ら関わっていこうとする気持ちであるシビックプライドの醸成につながる活動だと考えている。

人が集まりにくいという課題については、学園都市である本市の強みを生かして、由木地域の大学の学生に呼びかけることができれば、交流の場にもなると思う。

公園、緑道の使用許可の手続きは、市の公園課、公園の指定管理者へ申請いただくほか、東京都の南多摩西部建設事務所との協議が必要ですが、市への申請は、指定管理者分と合わせて公園課で一括して申請を受けることができる。

資金面の課題については、様々な民間企業や公益法人が地域活動に対する助成金等を設けているが「八王子コミュニティ活動応援サイト　はちコミねっと」には民間企業などが実施している助成金等の情報を掲載しているので、参考にしてほしい。

【その後の対応】

人が集まりにくいという課題については、広報はちおうじ令和４年 12 月 15 日号に掲載し、情報を発信した。

使用許可申請の手続きについては、指定管理者分と合わせて公園課で一括して受付を行い、申請の簡素化を図った。

資金面の課題については、「令和５年度市民企画事業補助金」補助対象事業募集について案内した。

＜意見＞　「里山の活動・文化再生活動」について

　みなみ野自然塾の活動を始めて今年で 25 年を迎え、公園アドプト制度の下、市と協働して栃谷戸公園と宇津貫緑地を拠点として活動している。活動のモットーは「楽しむことを第一に」。それが、私たちの暮らすまちづくりにつながると考えている。

　その原風景を市と協働して私たちの手でつくっていく。これまでの歴史、文化、技を引き継ぎ、楽しむことを第一に今を生き、そして未来を始める。市民の多彩な活動の輪が、互いに支え合いながら、さらなる八王子の魅力をつくり出していければと思っている。

≪市長発言（当日）≫

　環境教育・環境学習の推進には、様々な関係者の皆さんとの協力が必要。市では、市民・事業者、及び環境保全団体等と連携し、環境学習施設であるエコひろばを中心とした環境教育・環境学習の拠点の構築に取り組んでいる。また、子どもたちが自然の大切さを学べるよう、総合的な学習の時間を利用した体験型の「みどりの学習」を小・中学校向けに行っている。そのほか、里山の活動においては、人材育成の必要性が高まっているので、緑地の保全を行う人材育成事業について検討している。さらに、自然、環境等に関わっている団体等のネットワークを広げていくとともに、相互の活動情報を共有する場をつくることで、各団体の連携や課題解決につなげていけるよう支援していきたい。

【その後の対応】

**　令和５年度から新たに緑地・里山の管理を主体的に行う知識・技術を身に着けた「里山レンジャーズ」として活躍する人材を育成するための講座「緑地保全人材育成講習」を実施。連続講座で年間を通じ全６回。**

6　開催案内ポスター

令和5年度（2023 年度）

市長と語る

「市長と語る」は市民の皆さんの思いをまちづくりに活かすため、市民と市長が直接語り合う対話集会です。

地域住民の皆さんが主役になって八王子の未来をつくるため、日頃の地域活動等を通して考えるまちづくりへの思いや提案を市長にお聞かせください。

テーマ
市長と語る八王子の未来　～住民主体のまちづくりについて～

＜開催日程＞

開催日	時間	会　場	発言申込期限
5 月 27 日(土)	19:00～20:30	恩方市民センター	4月 21 日(金)
6月 24 日(土)	14:30～16:00	八王子駅南口総合事務所	5 月 26 日(金)
7 月 8 日(土)	14:30～16:00	南大沢市民センター	6 月 9 日(金)

◆発言には事前申込みが必要です。
- チラシ裏面「発言申込書」を郵送または FAX で申込み
  （チラシは市内各事務所、市民センター等で配布しています。）
- 市ホームページから申込み（下記 URL または2次元コードからアクセスください）
- テーマに関わる内容以外の発言申込みは、ご遠慮願います。
- 申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
- 申込み結果につきましては、後日連絡いたします。

◆各会場とも手話通訳・要約筆記・託児を行います（託児は要事前申込み）。
◆入場無料です。

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

【発言申込み】 八王子市ホームページ「市長と語る」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/007/p014146.html
【お問い合わせ先】八王子市 総合経営部 広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３－２４－１　☎ 620-7411（直通）/ FAX 620-7322

令和５年度（２０２３年度）「市長と語る」の記録
令和５年（2023 年）10 月

発行：八王子市　総合経営部　広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３-24-１
電話 042(620)7411（直通）
FAX　042(620)7322